

## 基準 2 教育組織（実施体制）

（学科，学級数及び入学定員）

資料 2-1-①-1

第 7 条 学科，学級数及び入学定員は，次の表のとおりとする。

学科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
物質工学科	1	40人
建築学科	1	40人

（出典 学則）

（専攻及び入学定員）

資料 2-1-②-1

第 48 条 専攻及び入学定員は，次の表のとおりとする。

専攻	入学定員
生産システム工学専攻	12人
物質工学専攻	4人
建築学専攻	4人

（出典 学則）

資料 2-1-③-1

施設の名称	主な役割
図書館情報センター	図書館及び情報処理教育施設・設備の管理運用を行う。
地域共同テクノセンター	企業との連携・交流の推進、地域へ教育資源を提供する。
技術教育支援センター	技術に関する専門教育及び教育研究の支援を行う。
保健室及び学生相談室	学生生活の支援を行う。
福利厚生施設(白砂会館ほか)	学生及び教職員の研修等に使用する。

（出典 規則集より抜粋）

資料 2-1-③-2

○米子工業高等専門学校図書館情報センター規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校に図書館情報センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターに図書館及び情報教育施設を置く。

（業務）

第 2 条 センターは，教育・研究資料の収集を行い，本校の有する教育・研究資源を円滑かつ効果的に管理運用し，有機的・効果的利用を図るため，次の各号に掲げる業務を行う。

- （1）図書館業務に関する事
- （2）情報教育に関する事
- （3）校内情報ネットワークに関する事

（出典 規則集）

資料 2-1-③-3

## 米子工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第 2 条 センターは、企業との連携・交流を推進するとともに、地域に対して本校の教育資源を提供するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- （1）企業等との共同研究及び受託研究等の研究開発推進に関すること。
- （2）企業等に対する技術指導及び技術相談に関すること。
- （3）公開講座・出前講座等地域における人材育成に関すること。
- （4）地域との連携及び交流等に関すること。
- （5）その他産学官連携に関すること。

（出典 規則集）

資料 2-1-③-4

## 米子工業高等専門学校技術教育支援センター規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 12 条の規定に基づき、教育及び研究に係る技術支援体制の充実及び強化を図り、本校における技術に関する専門的業務の支援を効率的かつ円滑に行うため米子工業高等専門学校技術教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第 2 条 センターの所掌業務は、次のとおりとする。

- 一 教育及び研究に対する技術支援の基本計画の策定に関すること。
- 二 学生の実験、実習、卒業研究等の準備等及び技術指導に関すること。
- 三 教員の教育及び研究に対する技術支援に関すること。
- 四 技術の継承及び保存並びに技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関すること。
- 五 技術資料の作成、保管及び提供等に関すること。
- 六 本校と企業等との共同研究、受託研究等における技術支援に関すること。
- 七 その他のセンターの目的達成のため必要な事項に関すること。

（出典 規則集）

## VI 保健衛生・福利厚生

保健衛生・福利厚生施設として、保健室、学生相談室および食堂・売店があります。学生が日常生活を安全で健康に過ごすことができるように配慮された施設です。

### 1. 保健室

学生や教職員の健康診断、健康相談、救急処置を行っています。

常時看護師が待機しており、救急処置用の医薬品も常備しています。

また、学校管理下での災害事故に関する日本スポーツ振興センターの医療費・見舞金等の請求手続、連絡事務も行っています。

学校医が定期的に来校し健康相談を行っています。

#### 日本スポーツ振興センター制度

学生全員が加入します。医療費のほか、損害・死亡見舞金が給付されます。災害を受けた時には、速やかに保健室に申し出てください。

### 2. 学生相談室

学校生活を送る上での悩みを解決するために必要な援助とサービスを行っています。少しでも悩みが解決できるよう開室していますので、気軽に来室してください。

また、専門のカウンセラーに相談することもできます。その場合は、あらかじめ保健室で予約することが必要です。

相談内容については秘密を厳守します。

相談日時 相談室前に掲示

専用電話（0859-24-5262）、相談ポストでも相談を受け付けています。

### 3. 福利厚生施設

福利施設（白砂会館）には、学生・教職員のための食堂、集会・研修・課外活動等のための研修室等があります。

研修室の使用時間 9時～19時

研修室を使用する場合は、学生課学生係に使用許可願を提出してください。

### 4. 食堂・売店

営業時間

売店 8:00～17:00

食堂 10:00～14:00

資料 2 - 1 - ③ - 6

情報教育施設の授業における利用状況

平成 25 年度図書館情報センター利用状況

		第 1 端末室 (前期)	第 1 端末室 (後期)	第 2 端末室 (前期)	第 2 端末室 (後期)
月	1	3 E	3 E		5 E
	2	3 E	3 E		5 E
	3	3 D		5 E	4 E
	4	3 D		5 E	4 E
	5	1 C	1 D	1 C	1 C
	6	1 C	1 D	1 C	1 C
	7	1 C		1 C	1 C
	8	3 M	3 M		
火	1	2 E	2 E	1 S	4 C
	2	2 E	2 E	1 S	4 C
	3	1 D		2 A	3 M
	4	1 D		2 A	3 M
	5	5 D	5 D	3 E	3 E
	6	5 D	5 D	3 E	3 E
	7			3 E	3 E
	8				
水	1	2 M	2 M	4 E	
	2	2 M	2 M	4 E	
	3	2 D	2 E	4 E	3 C
	4	2 D	2 E	4 E	3 C
	5	2 E			5 E
	6	2 E			5 E
	7				5 E
	8				
木	1	1 D	3 D		1 E
	2	1 D	3 D	5 E	1 E
	3	1 A	5 E	5 E	2 C
	4	1 A	5 E	5 E	2 C
	5	2 C			
	6	2 C			
	7				
	8				
金	1	1 E	1 D	5 M	
	2	1 E	1 D	5 M	5 E
	3	3 M	2 D	2 C	5 E
	4	3 M	2 D	2 C	5 E
	5	1 C	4 C	4 E	4 E
	6	1 C	4 C	4 E	4 E
	7	1 E	4 C	4 E	4 E
	8	1 E			

Mは機械工学科, Eは電気情報工学科, Dは電子制御工学科, Cは物質工学科, Aは建築学科  
また, 数字は準学士課程の学年を示す。

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	専攻科
週当たり情報処理施設利用時間	7	25	10	12	4	2

(出典 学生課教務・キャリア支援係資料)

#### 4. 地域ニーズ対応共同教育

実践的な問題設定と課題解決能力を養うことを目的として、地元企業が抱える課題やニーズを卒業研究・特別研究等のテーマに設定し、企業技術者等と「地域共同教育」を行った。受け入れたテーマは担当教員の指導の下で学生が主体となって取り組み、教育の一環として実施した。

なお、この活動を通して学生の意識を地元企業に向けさせ、人材の地域定着を図る狙いもあり、ものづくりの基盤技術を承継すると同時に、地域の人材の循環サイクルを確立することも長期的な視野に入れている。

#### 平成 24 年度取り組み実績

学 科	内 容	科 目	参加学生数
機械工学科	溶液中の泡挙動の制御	本科卒業研究 専攻科特別研究	2
電気情報工学科	小型スピーカの試作とその特性測定	本科学演習	4
	サインアート制御の無線化	本科学演習	4
電子制御工学科	景観再現・景観創造システムの開発	本科卒業研究 プロコン	11
物質工学科	カリウムの除去方法の検討	本科卒業研究	1
	溶液中の気泡移動速度に関する検討	専攻科特別研究	1
建築学科	2次製品用コンクリートの開発	本科卒業研究 専攻科特別研究	2



電気情報工学科  
「小型スピーカの試作とその特性測定」ポスター



電気情報工学科  
「小型スピーカの試作とその特性測定」



電子制御工学科  
「景観再現・景観創造システムの開発」  
〔※米子高専振興協会「新年交流会」において  
研究成果を発表した様子〕

## 資料 2 - 1 - ③ - 8

## 3. 地域ニーズ対応共同教育

実践的な問題設定と課題解決能力を養うことを目的として、地元企業が抱える課題やニーズを卒業研究・特別研究等のテーマに設定し、企業技術者等と「地域共同教育」を行った。受け入れたテーマは担当教員の指導の下で学生が主体となって取り組み、教育の一環として実施した。

なお、この活動を通して学生の意識を地元企業に向けさせ、人材の地域定着を図る狙いもあり、ものづくりの基盤技術を承継すると同時に、地域の人材の循環サイクルを確立することも長期的な視野に入れている。

学科	テーマ	科目	参加学生数
機械工学科	多孔質材料のパラメータ推定に関する研究	本科卒業研究 専攻科特別研究	4名
電気情報工学科	電動カートの走行制御に関する研究	本科卒業研究 専攻科特別研究	2名
電子制御工学科	iPhone / iPad を用いた画像処理アプリケーションの開発	本科卒業研究 専攻科特別研究 プログラミングコンテストの活動	12名
物質工学科	米の食味向上に関する検討	本科卒業研究	1名
建築学科	まちなか空き家活用プロジェクト ～空き家の活用や改修を通したワークショップによる実践的学習の試み～	本科卒業研究 専攻科特別研究	20名

## 4. 米子市まちなか空き家活用プロジェクト

本プロジェクトは、空き家を改修し、学生・若者が居住する地域拠点を作る取り組みであり、その改修自体も市民協働で行うもので、活用されないまま増える一方である空き家に対する活用モデルを示すことを目的とする。プロジェクト自体を学生や若者が行うことによって、若者たちが高齢化の進む中心市街地に対する関心・興味を持つきっかけになり、若者の集まる拠点ができることでまちの活性化につながる。

現在は改修も終わり、本プロジェクトに取り組んだ学生が居住しており、卒業時にはこの住居を後輩へ引き継ぐ予定である。

本プロジェクトの空き家は、『岩倉ふらっと』と名付けられ、「オープニングイベント」を始め、「デザコン優秀作品の展示会」、「空き家活用事例の勉強会」など、完成後も様々なイベントが行われた。

これらのイベント実施は、文部科学省『平成 25 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「地（知）の拠点整備事業」』、鳥取大学「地の発展的循環プロセスの構築による地域拠点整備事業」の一部を担っている。本プロジェクトは、今後も継続して行われる予定である。



米子まちなか空き家活用プロジェクト「岩倉ふらっと」改修ワークショップ 2013 年夏合宿 職人>先輩 OB>学生への学び



(左) 11月24日「岩倉ふらっと」オープニングイベントトークイベント前の様子  
(右) プロジェクトメンバーによる掃除イベント



「岩倉ふらっと」の活用実践として各種イベントにかかわる学生。  
(左) オープニングイベントチラシ、(中) 米子建築塾によるまちトーク、(右) デザコン最優秀作品展示



「岩倉ふらっと」で行われた、鳥取大学保健学科 徳嶋先生による「未来にそなえて元気なときも健康チェック」に集まる周辺の住民

(出典 平成 25 年度地域共同テクノセンター活動報告 P. 27-28)

## 3. 企業技術者等活用プログラムによる外部講師の招聘

資料 2 - 1 - ③ - 9

平成 20 年度に始まった企業技術者等活用プログラム制度による 24 年度の外部講師招聘実績は下表に示される通りであった。

企業技術者等活用プログラムによる外部講師招聘実績

NO.	講 師	月 日	主な対象	受講者数	講演・講義内容
1	東亜ソフトウェア㈱ 本池 由絵	5月20日	希望学生	6	ホームページ作成等に関する指導
2	㈱三友化学研究所 大谷 恭子	9月13日	C科5年生	7	「学生時代に学んでおくべきこと～化学企業編～」
3	NTTコミュニケーションズ㈱ 藤原 亜希子	11月17日	希望学生	14	「理系の道を考えるあなたに必要な3つのチカラ」
4	元㈱三菱総合研究所 藤本 隆宏	11月19日	希望学生	18	「現場力の強化による生産性向上」 「地域における産業を超えたものづくり教育の可能性」
5	大阪市立大学 土江 松美	12月15日	希望学生	11	「私の仕事について」
6	㈱三友化学研究所 大谷 恭子	2月3日	希望学生	7	「学生時代に学んでおくべきこと～理系女子の視点から～」
7	㈱氷温研究所 山根 昭彦	3月2日	希望学生	10	「鳥取発『氷温技術』とは」
8	㈱デンソー技研センター 安部 良夫 (植田 智之)	2月26日	M科 学生・技術 職員等	45	ものづくりを支える人づくり ーデンソーによる技能者育成ー
No.	講 師	月 日	主な対象	受講者数	講演・講義内容
9	㈱タジマモーターコーポレーション 代表取締役会長兼社長 田嶋 伸博	10月24日	E科3～5年生	32	「EVの普及に向けた業界や協会の取り組み」
10	㈱SI エージェンシー 黒崎 良太 他1名	9月9日	希望学生 学外希望者	11	スマートフォン向けアプリケーション開発入門
11	鳥取県産業技術センター 矢野原 泰士	5月29日	5C	11	酵素化学 機能性材料
12	㈱氷温研究所 山根 昭彦	7月10日	S2	4	「氷温技術とは？」
13	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所 玉井 博康	7月30日	5C	29	材料プロセス工学
14	㈱稲田本店 信木 真一 築谷 真司	10月29日	5C	13	応用微生物 機能性材料
15	鳥取県金属熱処理協業組合 製造課長 小谷 弘	11月7日	3C	40	材料・生物工学概論
16-1	㈱シンテック 藪内 信一郎	11月13日	4C	42	情報工学II 英語文献の読み方&翻訳におけるコツ
16-2	㈱シンテック 藪内 信一郎	1月8日	4C	45	情報工学II 英語文献の読み方&翻訳におけるコツ
17-1	サンイン技術コンサルタント㈱ 寺田 憲彦	1月8日	4C	46	分析化学II「企業における社員の質的向上に向けて」
17-2	サンイン技術コンサルタント㈱ 寺田 憲彦	1月15日	4C	46	分析化学II「企業における分析のポイント」
18	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所 玉井 博康	1月11日	S1	3	無機工業化学 機能性材料
19	王子製紙株式会社米子工場 畑中 明	1月21日	4C	44	化学工学II「モノ作りの考え方」
20	吉村寿博建築設計事務所 吉村 寿博	10月17日	AM: 4A+5A PM: 5A+S	60	午前: 卒業研究中間発表に対する指導 (設計技術者の立場から) 午後: 講演 「高専建築学生に向けた建築設計の現在」
21	畝森泰行建築設計事務所 畝森 泰行	10月17日	AM: 4A+5A PM: 5A+S	60	午前: 卒業研究中間発表に対する指導 (設計技術者の立場から) 午後: 講演 「高専建築学生に向けた建築設計の現在」
22	Studio-L 代表 山崎 亮	1月21日	5A+S	12	「学生ファミリーータ養成に関する講習会」 指導・実技講習
23	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	9月28日	30名	29	知的財産権の IPDL 検索(基礎編)・特許の新規性進歩性について
24	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	2月13日	30名	26	知的財産権の IPDL 検索(応用編)・特許検索の種類・方法に関する指導
25	田辺特許商標事務所 田辺 義博	10月19日	本科5年生	174	特許検索に関する指導
26	ロジックテクノロジー 田淵 利彦	2月27日～ 3月4日	希望学生	10	「C言語で学ぶ HS マイコン組み込み開発入門」

(出典 平成 24 年度地域共同テクノセンター活動報告 P. 31-32)

## 資料 2 - 1 - ③ - 10

**2. 企業技術者等活用プログラムによる外部講師の招聘**

平成 20 年度に始まった企業技術者等活用プログラム制度による 25 年度の外部講師招聘実績は下表に示される通りであった。

番号	講師名	月日	主な対象	講演・講義内容
1	(株)SI エージェンシー 黒崎 良太、森原 学	9/7,8	希望学生・学外希望者 15 名程度	「iPad/iPhone 向けアプリケーション開発入門」
2	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	9/27	S1	特許検索の種類・方法に関する指導 「知的財産権の IPDL 検索(基礎編)・特許の新規性進歩性について」
3	田辺特許商標事務所 田辺 義博	10/18	本科 5 年生	「知的財産権について」
4	(有)シンテック 藪内 信一郎	11/12	4C	情報工学 II 「英語文献の読み方」～科学論文を読み解くコツ～
5	(株)稲田本店 信木 真一 築谷 真司	11/18	5C・選択学生	応用微生物「機能性材料」
6	サンイン技術コンサルタント(株) 寺田 憲彦	11/22	4C	分析化学 II 「企業における社員の質的向上に向けて」
7	サンイン技術コンサルタント(株) 寺田 憲彦	11/29	4C	分析化学 II 「企業における分析のポイント」
8	(公財)鳥取県産業振興機構 知的所有権センター 景山 隆	12/24	S1	特許検索の種類・方法に関する指導 「知的財産権の IPDL 検索(応用編)・特許の新規性進歩性について」
9	(有)シンテック 藪内 信一郎	1/7	4C	情報工学 II 「英語文献の読み方～科学論文を読み解くコツ～」
10	島根大学大学院 総合理学研究科 山本 真義	1/20	4E・S1・2 選択学生	「ハイブリッドカーにおけるパワー半導体の応用」
11	(地独)鳥取県産業技術センター 機械素材研究所 玉井 博康	2/4	S1・選択学生	無機工業化学
12	ロジックテクノロジー 田淵 利彦	3/3～ 3/6	希望学生・10 名	「メカトロニクスのためのマイコン技術入門」

(出典 平成 25 年度地域共同テクノセンター活動報告 P. 27)



### 5. EV人材育成事業

鳥取県が進めている「鳥取県EV人材育成カリキュラム講座」の「実証講義」として、本校では以下の講義が行われた。

実施日			内 容
7	11	水	量子力学と電池（担当教員：田中晋） 講師：松田俊介（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）
9	25	火	電気自動車技術概論（担当教員：松本至） 講師：秦野隆光（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）
10	9	火	ECU 開発手法（担当教員：井上） 講師：新井英雄（株式会社 Sim-drive）
11	14	水	電気自動車をふまえた次世代のまちづくり（担当教員：玉井） 講師：玉井孝幸（米子工業高等専門学校）
11	14	水	流体力学と空気抵抗（担当教員：早水） 講師：秦野隆光（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）
12	21	金	グリッド関係（エネルギー供給システム）（担当教員：松原） 講師：秦野隆光（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）
12	21	金	半導体と電子回路（担当教員：浅倉） 講師：秦野隆光（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）

「鳥取県EV人材育成カリキュラム講座」に「実習講義」として以下の講義が追加され本校の学生が参加した。

実施日			内 容
9	14～21	金～金	EV小型車分解組み立て実習 講師：秦野隆光（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー） 講師：岡澤秀明（株式会社 ナノオプトニクス・エナジー）
2	28	木	レーシングドライバー井原慶子氏による電気自動車運転実習 講師：井原慶子（国際レーシングドライバー）

（出典 平成 24 年度地域共同テクノセンター活動報告 P. 34）

(別表)

## 鳥取県EV人材育成カリキュラム

No.	題目
1	電気自動車序論
2	電気自動車技術概論
3	力学と電気自動車の走行性能
4	電磁気学とモーターの概念
5	量子力学と電池
6	材料力学と車体強度
7	流体力学と空気抵抗
8	半導体と電子回路
9	インホイールモーター基礎論
10	インホイールモーター設計手法
11	インバーター開発手法
12	ECU 開発手法
13	電気自動車サスペンション開発手法
14	電気自動車ステアリング開発手法
15	電気自動車ボディ開発手法
16	従来型電気自動車
17	品質管理論
18	電気自動車をふまえた次世代のまちづくり
19	グリッド関係 (エネルギー供給システム)
20	グリッド関係 (技術の標準化)
21	電気自動車の概要理解
22	電気自動車の分解組立作業とは
23	電気自動車の分解試行
24	電気自動車の動作による仕組みの理解
25	電気自動車の構造スケッチ
26	電気自動車の組立試行
27	電気自動車の生産
28	電気自動車の生産における分解作業分析と記録
29	電気自動車の組立と作業分析
30	運転者から見た電気自動車
31	運転者としての電気自動車の体感

(出典 平成 25 年 3 月 21 日 鳥取県実践的 EV 人材育成事業  
第 2 回 EV 人材育成カリキュラム評価委員会資料)

資料 2 - 1 - ③ - 13

企業技術者等活用プログラムの活用実績

日本海新聞 平成23年2月25日(金) 25面

# 夢広がるEV生活

## 米子高専生と ナノ社・藤原社長 未来像を議論

米子市で電気自動車(EV)などの生産を計画する環境・エネルギーベンチャー、ナノオプトニクス・エナジィ(京都市)の藤原洋社長を招いた。パネル討議が24日、米子市彦名町の米子高専で開かれた。学生たちは「私にとって夢のEVライフとは」のテーマで、活の中でEVの活用方法を発表。藤原社長と

EVの未来像について意見交換した。EV開発に携わる人材育成を目指す米子高専が企画。4年生約210人が聴講した。パネル討議では、専攻科1年の学生5人がパネリストとして参加。3人が「研究データがぶっ飛ばない生活」「EVが迎えに来る生活」「道路が芝生の街に暮らす生活」の3つをテーマで発表した。このうち、「EVが迎えに来られる生活」と題し、自動運転機能を備えたEVが普及した生活について発表した学生5人は、「一つの街に二つぐらいの大きな駐車場を造って自動でEVを迎えに来てもらえた方が、寝ていても送ってくれる。家に駐車場を設ける必要もない」と



学生の発表をメモを取りながら聞く藤原社長(右から2人目) = 24日、米子市彦名町の米子高専

しい発想だった」と発  
表者3人を激励。ナノ  
社の独自モデルの一つ  
として「現在、鳥取大  
いる」と述べた。

(出典 平成 23 年 2 月 25 日 日本海新聞)

資料 2 - 1 - ③ - 13

企業技術者等活用プログラムの活用実績

山陰中央新報 平成24年2月23日(木) 20面

分解した部品を使いながら、ハイブリッドカーの構造の説明を受ける学生。米子市曰下、鳥取県産業技術センター機械素材研究所



## 米子高専生 EV 勉強会

### 地元で生産工場稼働控え

電気自動車（EV）の生産工場の稼働を控える米子市内で22日、米子高専（米子市彦名町）の学生に次世代自動車に関する知識、技術を学んでもらう勉強会があった。参加した80人が、EVやハイブリッド車（HV）への理解を深めた。

米子市内では、ベンチャー企業のテクノオプトニクス・エナジーが、3月にEVの試作に入り、本社も京都市から移転予定。他の大手自動車メーカーも、次世代自動車の開発に注力していることから、鳥取県産業技術センターが米子高専と共催で、学生の勉強会を企画した。

米子市曰下の同センター機械素材研究所で開かれ、機械工学、電気情報工学科の3年生が参加。講師に招かれた、三菱自動車EV・パワートレインシステム技術部の吉田裕明氏は今後、世界規模で自動車台数が増え続けるため、地球温暖化の防止や石油依存度の低減には、「環境に配慮した車の市場投入が欠かせない」と指摘した。

また、EVの蓄電池は非常時の電源になるなど、従来の車とは異なる役割も果たすとし、「いろいろな技術を組み合わせれば、面白いものになる」とやりがいを感じた。同センター職員による、分解したHVの部品3万6千点を使った構造の説明もあり、機械工学科3年の福光健太郎君（18）は「社会でどんな車が求められているか、考えるきっかけになった」と話した。

(出典 平成 24 年 2 月 23 日 山陰中央新報)

資料 2-1-③-13

企業技術者等活用プログラムの活用実績

平成 24 年 3 月 9 日 (金曜日) 文 教 速

## 米子高専、県産業技術センターと共催で電気自動車の勉強会

米子高専では去る二月二十二日、企業技術者等活用プログラム「即戦力たる次世代環境エネルギー技術者育成」の一環として、新世代電気自動車に関する勉強会を開催し、機械工学科と電気情報工学科の三年生約八十名が参加した。

米子高専と「連携協力に関する協定」を締結している鳥取県産業技術センター機械素材研究所で、先端自動車技術を学ぶ講演会とハイブリッド車の分解展示見学会を共催した。

講演会は、三菱自動車工業㈱開発本部 E・V・パワートレインシステム技術部長の吉田裕明氏を講師に招き、「新世代電気自動車の開発と今後の展望」と題して実施した。

講演の中で吉田氏は、電気自動車開発に長年携わる技術者の立場から、地球温暖化に関する多角的分析、電気自動車の歴史、非接触充電やスマートグリッドといった近未来の電力供給の仕組みなどが、最先端の技術をわかりやすくかみ砕いて解説した。

学生は続く見学会で、講演で学んだことを確かめるように、分解されたハイブリッド車の部品一つひとつを食い入るように見つめ、

鳥取県産業技術センター職員の解説に、熱心に耳を傾けていた。

勉強会にはマスコミも取材に訪れ終了後、報道陣からのインタビューに対して、「将来は新世代自動車に関わる仕事に就きたい」と答える学生も多く、今回の企画は学生らにとって良い刺激となったようだ。

米子高専では、来年度以降も引き続き、企業技術者等活用プログラムを積極的に活用し、米子市での E・V 生産工場稼働に伴い必要とされる「新世代自動車エンジニア養成」という地域の期待に



分解されたハイブリッド車の部品を前に説明を受ける学生

来年度以降も引き続き、企業技術者等活用プログラムを積極的に活用し、米子市での E・V 生産工場稼働に伴い必要とされる「新世代自動車エンジニア養成」という地域の期待に

(出典 平成 24 年 3 月 9 日 文教速報)

## 平成 25 年度技術教育支援センター教育支援（依頼分）

資料 2 - 1 - ③ - 14

## 機械工学科

学年	科目名	担当時数	担当人数	延べ人数/週
1年	情報リテラシ（後期）	2	1	1
1年	図形情報（前期）	2	1	1
1年	基礎製図Ⅰ	2	2	4
1年	ものづくりワークショップ	1	1	1
1年	機械工学実験実習Ⅰ	3	5	15
2年	図形情報ワークショップⅠ	2	1	2
2年	機械工学実験実習Ⅱ	3	5	15
3年	情報処理	1	2	2
3年	設計製図Ⅰ	2	1	2
3年	機械工学実験実習Ⅲ	3	5	15
4年	設計製図Ⅱ	3	2	6
4年	機械工学実験実習Ⅳ（前期）	3	5	7.5
4年	機械工学実験実習Ⅳ（後期）	3	4	6
5年	機械工学実験実習Ⅴ（後期）	3	1	1.5
5年	設計製図Ⅲ	3	1	3
合計				82

## 電気情報工学科

学年	科目名	担当時数	担当人数	延べ人数/週
1年	情報リテラシ（前期）	2	1	1
1年	情報処理	2	1	2
1年	電気情報基礎実験Ⅰ（前期）	2	4	4
1年	電気情報基礎実験Ⅰ（後期）	2	1	1
2年	電気情報基礎実験Ⅱ	2	1	2
2年	プログラミングⅠ	2	1	2
3年	電気情報基礎実験Ⅲ	3	2	6
3年	プログラミングⅡ	2	1	2
4年	電気情報応用実験Ⅰ	3	1	3
5年	電気情報応用実験Ⅱ	3	2	6
5年	電気機器設計（後期）	3	1	1.5
合計				30.5

## 電子制御工学科

学年	科目名	担当時数	担当人数	延べ人数/週
1年	情報リテラシ/電子制御基礎	2	1	2
1年	情報処理Ⅰ	2	1	2
1年	基礎製図	2	1	2
1年	工学実験実習Ⅰ	2	1	2
2年	情報処理Ⅱ	2	1	2
2年	設計製図	2	1	2
2年	工学実験実習Ⅱ	2	5	10
3年	計算機概論	2	1	2
3年	工学実験実習Ⅲ	3	1	3
4年	工学実験実習Ⅳ	3	1	3
5年	工学実験実習Ⅴ	3	1	3
合計				33

## 建築学科

学年	科目名	担当時数	担当人数	延べ人数/週
1年	情報リテラシ（前期）	2	1	1
1年	設計製図Ⅰ	2	1	2
2年	建築情報Ⅰ	2	1	2
2年	設計製図Ⅱ	3	1	3
3年	デザイン基礎Ⅲ（後期）	2	2	2
3年	建築情報Ⅱ（後期）	2	2	2
3年	設計製図Ⅲ	6	1	6
4年	CAD・CG	2	1	2
5年	創造実験・演習（前期）	3	2	3
5年	卒業研究（後期）	3	2	3
専1年	建築構造材料実験（前期）	2	2	2
合計				28

## 物質工学科

学年	科目名	担当時数	担当人数	延べ人数/週
1年	情報リテラシ（前期）	2	1	1
1年	物質工学基礎実験	3	2	6
2年	情報科学Ⅰ（前期）	2	1	1
2年	分析化学基礎実験	3	2	6
2年	物質工学創造実習	2	1	2
3年	情報科学Ⅱ（後期）	2	1	1
3年	有機化学基礎実験	3	1	3
3年	生化学基礎実験	3	1	3
4年	物理化学Ⅱ（後期）	2	5	5
5年	卒業研究	2	1	2
合計				30

## 教養教育科

学年	科目名	担当時数	担当人数
1学年 5学科	化学Ⅰ、基礎化学、化学Ⅱ	60H/年	1
2学年 M、E、D、A			
1学年 5学科	物理Ⅰ、物理Ⅱ	68H/年	2
2学年 5学科			
4学年 M、E、D、C	応用物理Ⅱ	64H/年	4

（出典 技術教育支援センター資料）

平成25年度技術支援・行事等運営支援（依頼分）

平成25年9月1日現在

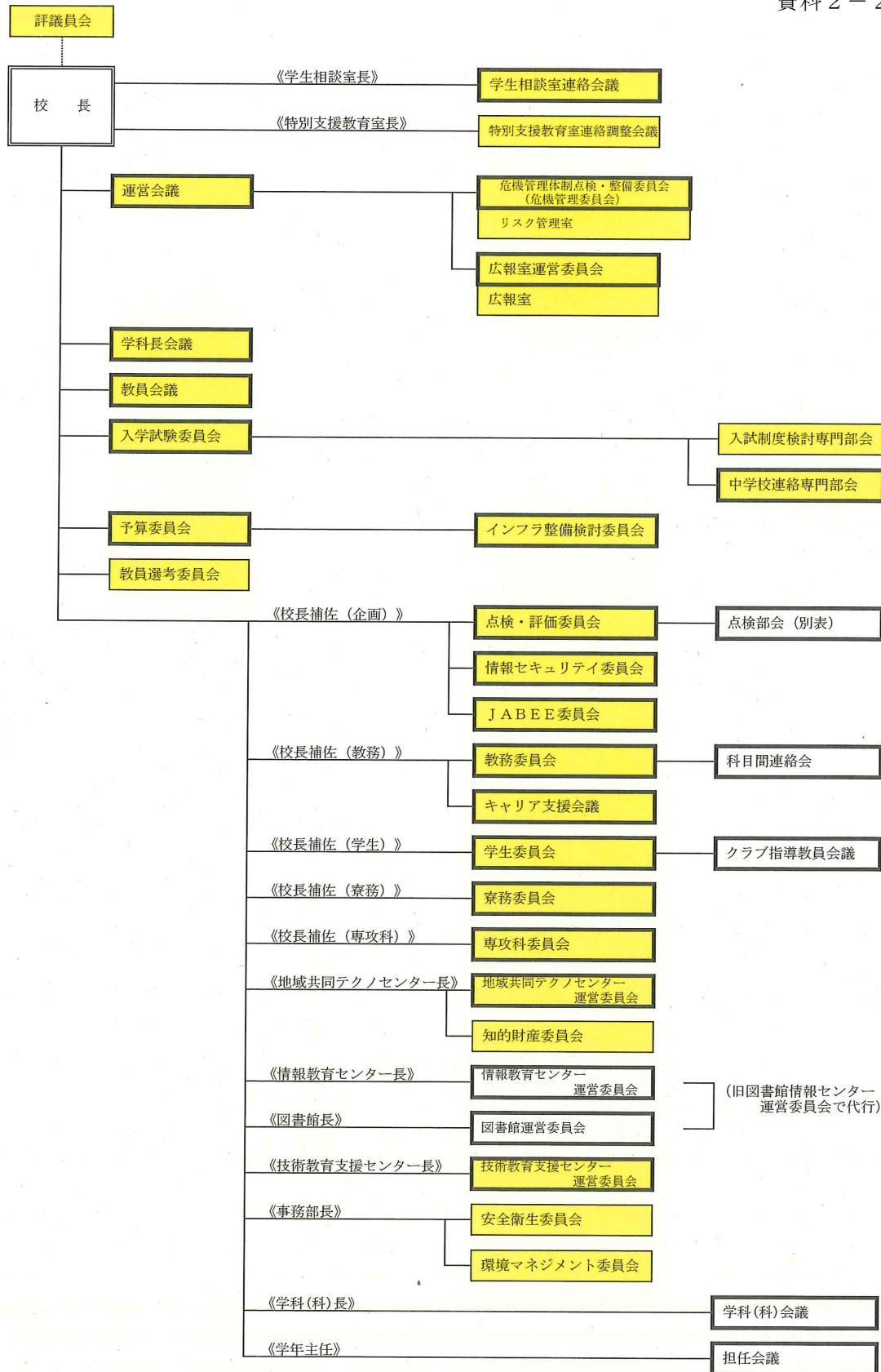
資料 2 - 1 - ③ - 15

依頼元	依頼内容
機械工学科	M科ホームページメンテナンス
	教科及び学科関係資料の印刷業務
	設計製図における図面チェックなどの支援
	インターンシップ報告会
	卒業研究中間発表会
	卒業研究発表会
	高専祭M科科展などに関する設計・製作・展示など支援
	オープンキャンパス
	M科ロボコン設計・製作など支援
M科スターリングテクノロジー設計・製作など支援	
電気情報工学科	E科ホームページ管理
	オープンキャンパスに係わる運営支援
	E 5 卒業研究発表会に係わる運営支援
	E 4 工学演習発表会に係わる運営支援
	E 4 インターンシップ報告会に係わる運営支援
	エンジョイ科学館に係わる運営支援
	ロボコン・プロコン等コンテスト参加支援
学生の資格取得支援	
電子制御工学科	各種卒業研究発表会の支援
	インターンシップ報告会の支援
	オープンキャンパスの支援
	ロボコン製作の支援
	D 1, D 2, D 4, D 5 工学実験に関する業務
	D 1, D 2, D 4, D 5 工学実験テキストの印刷・製本
	D 3 工学実験に関する業務
	D 3 工学実験テキストの印刷・製本
D 1 製図で使用する資料の印刷	
D 2 製図で使用する資料の印刷	
物質工学科	C科共通機器のメンテナンスと学生への使用法指導
	C科ホームページ及びファイルサーバの維持管理支援
	エンジョイ科学館開催補助
	オープンキャンパス開催補助
	実験廃液及び廃薬品容器管理
	実験排水槽の管理
	物質工学専攻特別研究中間発表会及びC科卒業研究中間発表会の開催支援
	物質工学専攻特別研究発表会及びC科卒業研究発表会の開催支援
建築学科	実験実習機器類の操作指導、安全指導補助、メンテナンスなど
	製図室、CAD室、実験室などの管理補助
	卒研指導補助
	コンペなど活動補助
	環境教育に関連した支援
	教材など作成支援
	国際的な活動支援
	A科の定例的行事における支援 (全国高専デザコン、卒研など発表会、科展、講演会、作品展など)
	A科のPR活動における支援 (A科HP作成補助、卒業研究梗概集、PRパンフレット)
	A科の活動運営に関する支援
	A科が学校行事に参加するための諸準備などの支援 (エンジョイ科学館、公開講座、出前講座、オープンキャンパス)
	全国高専デザインコンペティションの開催・運営に関わる支援
	認証評価、J A B E Eに関連した支援
専攻科	特別研究に係る支援（ものづくりセンターの設備利用に伴う指導）
図書館情報センター	情報教育設備の保守管理
	校内ネットワーク・サーバの保守管理
	教職員の端末機の管理
M科（権田教員）	出前講座「子ども科学講座」への技術支援
C科（小田教員）	竹の切断加工（卒業研究）
C科（青木教員）	受託研究（中海及び米子湾）
	受託研究（中海及び周辺河川）
A科（稲田教員）	2013全国高専デザコン米子大会の構造部門の支援
香川校長補佐	南ソウル大学校生との学校交流支援 (ものづくり体験型学生交流等)
古杉学生課長	鳥取県－バーモント州青少年交流事業に係る学生交流支援
	第1回オープンキャンパスでの駐車場誘導に係る支援
松本キャリア支援室長	特別日課における1年生対象講演会での講演

(出典  
技術教育支援センター  
資料)

資料 2-2-①-1 平成26年度委員会関連図

資料 2-2-①-1



《 》は、主管者等

(出典 平成 25 年 10 月 16 日 学科長会議資料)



## 資料 2 - 2 - ① - 2

## ○米子工業高等専門学校運営会議規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

（目的）

第 2 条 運営会議は、校長の諮問に応じ、本校の運営に関する重要事項について審議することを目的とする。

（構成員）

第 3 条 運営会議は、次の者をもって構成する。

- （1）校長
- （2）校長補佐（企画、国際交流、教務、学生、寮務、専攻科）
- （3）地域共同テクノセンター長
- （4）事務部長
- （5）総務課長及び学生課長
- （6）その他校長が指名する者

（会議）

第 4 条 運営会議は、原則として月 2 回開催する。

（後略）

（出典 規則集）

## 資料 2 - 2 - ① - 3

## ○米子工業高等専門学校点検・評価委員会規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じて、本校の教育研究及びその他の諸活動についての自己点検・自己評価、外部評価及び第三者評価に関する次の各号に掲げる事項について審議する。

- （1）点検及び自己評価の基本方針並びに実施に関すること。
- （2）点検・評価の結果の公表に関すること。
- （3）点検・評価の結果に対する意見・改善策等に関すること。
- （4）外部評価及び第三者評価に関すること。
- （5）その他自己点検及び自己評価に関すること。

（点検部会）

第 3 条 委員会に、別表に掲げる点検部会を設置する。

2 点検部会は、それぞれの所掌に関する業務について年 1 回の自己点検・評価を行い、委員会へその点検結果を提出するものとする。

（構成員）

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- （1）校長補佐（企画、国際交流、教務、学生、寮務、専攻科）
- （2）地域共同テクノセンター長
- （3）事務部長

（後略）

（出典 規則集）

## ○米子工業高等専門学校学科長会議規則（抜粋）

資料 2 - 2 - ① - 4

(設置)

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校学科長会議（以下「学科長会議」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 学科長会議は、校長の諮問に応じ、本校の教育・研究に関する重要事項について審議することを目的とする。

(構成員)

第 3 条 学科長会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 校長補佐（企画，国際交流，教務，学生，寮務，専攻科）
- (3) 各学科長及び教養教育科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報教育センター長
- (6) 地域共同テクノセンター長
- (7) 技術教育支援センター長
- (8) キャリア支援室長
- (9) 広報室長
- (10) 事務部長及び各課長
- (11) 技術教育支援センター技術長

(会議)

第 4 条 学科長会議は、原則として月 1 回開催する。

(後略)

(出典 規則集)

## ○米子工業高等専門学校教務委員会規則（抜粋）

資料 2 - 2 - ① - 5

第 1 条 米子工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、教育計画の立案，教育課程等の編成，学習指導，その他教務に関する必要な事項について審議し，連絡調整することを目的とする。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長補佐（教務）
- (2) 教務主事補
- (3) 教養教育科長，各学科長及び副専攻科長
- (4) 学年主任
- (5) 学生課長

(後略)

(出典 規則集)

## ○米子工業高等専門学校専攻科委員会規則（抜粋）

資料 2 - 2 - ① - 6

(趣旨)

第 1 条 この規則は、米子工業高等専門学校専攻科規則第 5 条第 2 項の規定に基づき、米子工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) その他専攻科に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長補佐（専攻科）
- (2) 副専攻科長
- (3) 専攻科長補
- (4) 各学科，教養教育科で専攻科を担当する教員各 1 名
- (5) 学生課長

(後略)

(出典 規則集)

## 資料 2 - 2 - ① - 7

## ○米子工業高等専門学校学生委員会規則（抜粋）

第1条 米子工業高等専門学校学生委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、学生の課外教育、厚生福祉、保健衛生、入学金免除者選考、授業料免除者選考及び奨学金に関する必要事項を審議し、連絡調整することを目的とする。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長補佐（学生）
- (2) 学生主事補
- (3) 学級担任のうち各学年から選出された者及び専攻科長補 各1人
- (4) 各学科及び教養教育科から選出された教員 各1人
- (5) 学生課長

2 前項第3号に規定する委員は、校長が任命する。

（後略）

（出典 規則集）

## 資料 2 - 2 - ① - 8

## ○米子工業高等専門学校寮務委員会規則（抜粋）

第1条 米子工業高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）は、校長の諮問に応じ、本校学寮の運営及び寮生の生活指導等に関する必要な事項を審議し、連絡調整することを目的とする。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長補佐（寮務）
- (2) 寮務主事補
- (3) 学級担任のうち各学年から選出された者 各1人
- (4) 各学科及び教養教育科から選出された教員 各1人
- (5) 学生課長

2 前項第3号に規定する委員は、校長が任命する。

（後略）

（出典 規則集）

## 資料 2 - 2 - ① - 9

## ○米子工業高等専門学校評議員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営に関し、外部からの意見を聴くため、評議員会を置く。

（審議事項）

第2条 評議員会は、校長の諮問に応じて、に掲げる事項について審議する。

- (1) 本校の教育研究活動に関する重要事項
- (2) 本校の地域貢献活動に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

（委員）

第3条 評議員会の委員は10名以内とし、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者の内から、校長が委嘱する。

（後略）

（出典 規則集）

○米子工業高等専門学校入学試験委員会規則（抜粋）

（設置）

第 1 条 米子工業高等専門学校に、入学者の選抜を行うため、米子工業高等専門学校入学試験委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- （1） 入学者の募集に関する事項
- （2） 入学者選抜試験の実施計画に関する事項
- （3） 入学者の判定に関する事項
- （4） 転学科生の認否に関する事項
- （5） その他入学者選抜に関する重要事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- （1） 校長
- （2） 校長補佐（企画，国際交流，教務，学生，寮務，専攻科）
- （3） 教務主事補及び副専攻科長
- （4） 教養教育科長，各学科長
- （5） 事務部長
- （6） 学生課長

（後略）

（出典 規則集）

## 平成25年度会議予定日

資料2-2-①-11

平成25年1月16日

月	日	曜	運営会議	学科長会議	教員会議	備考
4	2	(火)	10:30		15:00	春季休業中 (4/3始業式, 4/4入学式)
	17	(水)	9:30	15:45		
5	1	(水)	9:30		15:45	(GWの狭間)
	15	(水)	9:30	15:45		球技大会/特研等
6	5	(水)	9:30		15:45	
	19	(水)	9:30	15:45		
7	3	(水)	9:30		15:45	
	17	(水)	9:30	15:45		
8	7	(水)	9:30		15:45	前期期末試験最終日
9	18	(水)	9:30	13:30		夏季休業中
10	2	(水)	9:30		15:45	
	16	(水)	9:30	15:45		特別行事初日
11	6	(水)	9:30		15:45	
	20	(水)	9:30	15:45		
12	4	(水)	9:30		15:45	後期中間試験初日
	18	(水)	9:30	15:45		スポレク大会/特研等
1	8	(水)	9:30		15:45	
	22	(水)	9:30	15:45		1/15月曜授業 1/21推薦入試
2	5	(水)	9:30		15:45	
	19	(水)	9:30	15:45		2/16学力入試 学年末試験初日/後期期末試験2日目
3	5	(水)	9:30		13:30	臨時休業中
	19	(水)	9:30	13:30		臨時休業中

※ 開催日・開催時刻 : 原則 第1・3水曜日 運営会議9:30 学科長会議/教員会議15:45

(出典 総務課総務係資料)

## 運営会議議事要旨 (抜粋)

- 1 日 時 平成 26 年 3 月 5 日 (水) 9:30~12:10
- 2 出席者 校長, 校長補佐 (企画), 校長補佐 (国際交流), 校長補佐 (教務), 校長補佐 (学生), 校長補佐 (寮務), 校長補佐 (専攻科), 地域共同テクノセンター長, 事務部長, 総務課長, 学生課長

## 3 議事要旨

## 【審議事項】

## (1) 平成 26 年度設備整備マスタープランについて

総務課長から, 資料 1 (平成 26 年度設備整備マスタープラン導入希望設備 (更新・新規) の評価 (案) 等) に基づき, 2 月 19 日に開催されたインフラ整備検討委員会で認められたマスタープラン導入希望設備の評価案について提案があり, 審議の結果承認された。

## (2) 3Dプリンタ拠点整備による支援事業の公募について

地域共同テクノセンター長から, 資料 2 (3Dプリンタ拠点整備事業への応募について等) に基づき, 経済産業省の 3Dプリンタ拠点整備事業の概要・スケジュール等の説明があり, 続いて本校の対応について提案があり, 審議の結果承認され, 今後仕様策定等の準備を進めることとなった。

## (3) 米子工業高等専門学校学則等の一部改正について

学生課長から, 資料 3 (米子工業高等専門学校学則新旧対応表等) に基づき, 6 月と 9 月の運営会議で認められた本科・専攻科のカリキュラム改訂, 学生心得の学生服変更に関する改正等及び高専以外の教育施設等における学修等に関する規則において対象となる試験等の種類の追加について説明があり, 審議の結果承認された。なお, 専攻科のカリキュラム改訂について, このあと専攻科委員会で報告するよう指示があった。

## (4) 平成 26 年度非常勤講師の任用について

校長補佐 (教務) から, 資料 4 (平成 26 年度非常勤講師の任用について (新規) 等) に基づき, 平成 26 年度の新規任用及び継続任用の非常勤講師について説明があり, 審議の結果承認された。なお, 審議の参考として, 平成 25 年度授業評価アンケート結果について, 評価項目の平均点で 2.5 点以下の教員はいなかったと報告された。今後 2.5 点以下の場合には個別に指導する旨も報告された。

## (5) 米子工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する規則等の改正について

学生課長から, 資料 5 (米子工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する規則新旧対照表等) に基づき, 入学料の免除及び徴収猶予に関する規則, 入学料徴収猶予選考基準及び授業料免除選考基準の機構規則の改正に伴う改正等について説明があり, 審議の結果承認された。

## 【報告事項】

## (1) 平成 26 年度校務分掌について

校長から, 資料 7 (平成 26 年度校務分掌) に基づき, 学級担任・主事補等の内示があった。

## (2) 平成 25 年度年度計画実績報告書及び平成 26 年度年度計画の作成について

校長補佐 (企画) から, 資料 8 (平成 25 年度年度計画実績報告書及び平成 26 年度年度計画の作成について) に基づき, 今後のスケジュールについて連絡があった。なお, 各部署において点検を行い, 実績を報告してほしい旨依頼があった。

## (3) J A B E E 中間受審について

校長補佐 (専攻科) から, 資料 9 (技術者教育プログラム中間審査申請書等) に基づき, J A B E E 中間審査の受審にかかる申請等について報告があった。

## 【その他】

## (1) 今後の行事予定について

総務課長から, 資料 10 (行事予定表) に基づき, 今後の行事予定について確認があった。

## (2) 教員会議の議題について

総務課長から, 教員会議資料に基づき, 本日開催の教員会議について議題の確認があった。

(出典 平成 26 年 3 月 5 日運営会議議事要旨)

### 第 3 回 点検・評価委員会議事要旨

日 時 平成 25 年 8 月 7 日 (水) 9 : 30 ~ 9 : 35 (運営会議前)  
場 所 校長室  
出席者 校長補佐 (企画) (委員長), 校長補佐 (国際交流), 校長補佐 (教務), 校長補佐 (学生), 校長補佐 (寮務), 校長補佐 (専攻科), 地域共同テクノロジーセンター長, 事務部長  
(陪席) 校長, 総務課長, 学生課長

#### 議 題

(1) 平成 24 年度教育研究活性化経費に係る成果報告書評価 (案) について

..... (資料 1)

大塚委員長から資料 1 に基づき, 平成 24 年度教育研究活性化経費に係る研究成果を, 今年度から適用する新判定基準により, 各学科 (科) 長の意見を踏まえ, 各々 2 名の担当者により評価を行い, 最終判定として取りまとめた成果報告書評価 (案) について提案があり, 承認された。

今後, 本評価結果を本人宛に連絡することとし, 今年度も申請があれば本評価結果を含めて審査する旨併せて説明があった。

(2) その他  
特になし

(出典 平成 25 年 8 月 7 日点検・評価委員会議事要旨)

## 平成 25 年度第 11 回専攻科委員会議事要旨

日 時 平成 26 年 3 月 27 日 (木) 10:30~12:00  
場 所 大会議室  
出席者 委員長 稲田専攻科長 (建築),  
小川副専攻科長 (物質), 宮田専攻科長補 (電気), 山口 (機械), 細田 (建築), 大庭 (教養),  
松岡 (山根専攻科長補の代理), 角田 (中山委員の代理), 古杉学生課長の各専攻科委員

## 議題

## (1) 審議事項

## 1 科目系統図の改定について

副専攻科長から「特別研究Ⅰ」, 「特別研究Ⅱ」及び「技術表現技法」のカリキュラム改定に伴う科目系統図及びカリキュラム系統図の改定について説明があった。

各学科に持ち帰り審議し, 意見があれば専攻科長へ回答することとなった。

## (2) 報告・連絡事項

## 1 特例適用専攻科の申請について

専攻科長から資料のとおり平成 26 年 3 月 20 日に行われた認定専攻科修了見込み者に対する新たな審査方式の適用認定申出の手続き等に係る説明会の報告があった。

また, 専攻科長から資料のとおり審査に係る書類の「学修総まとめ科目のシラバス」, 「学修総まとめ科目の成績評価の基準」及び「学修総まとめ科目の担当教員の調書」について特別研究Ⅱの担当教員に作成をお願いする旨説明があった。

## 2 学位審査手数料の改定について

専攻科長から (独) 大学評価・学位授与機構より学位審査手数料の改定の通知があった旨説明があった。

## (3) その他

## ・ 福井大学大学院との推薦入学に関する協定について

専攻科長から 4 月 1 日付で福井大学より協定書が送付されてくる旨報告があった。

(出典 平成 26 年 3 月 27 日専攻科委員会議事要旨)



## 平成 25 年度 第 2 回入試委員会議事要旨 (抜粋)

日 時 : 平成 25 年 5 月 8 日 (水) 15:45 ~ 16:30  
場 所 : 大会議室  
出席者 : 入試委員会委員  
欠席者 : 森田慎一機械工学科長 (松本 至教員代行)  
陪席者 : 加藤学生課課長補佐, 荒木教務・キャリア支援係長

## 議事要旨

1. 平成 26 年度専攻科入学者選抜検査 (推薦による選抜) 実施要項 (案) について  
校長補佐 (専攻科) から, 資料 1 により説明があり認められた。  
面接検査は, 志願者数 5 名ごと面接時間 15 分程度とし, アドミッションポリシー  
を評価の参考にしてほしい旨発言があった。
2. 平成 26 年度編入学者選抜検査 (案) について  
校長補佐 (教務) から, 資料 2 のとおり実施したい旨提案があり認められた。  
また, 電気情報工学科と電子制御工学科では, 検査科目が「電気基礎」で同一の  
ため間違える可能性もあるので, 検査科目変更について, 来年度を目途に検討してほ  
しい旨, 電子制御工学科長に依頼があった。
  - (1) 平成 25 年度編入学生募集要項 (案) について
  - (2) 平成 25 年度編入学者選抜検査担当者選出及び検査問題の作成手順について
3. 平成 26 年度以降の本科入学者選抜検査に係る提出書類の追加について  
学生課長から, 資料 5 により説明があり, 学習成績分布表の提出を中学校に求め  
ることとし, 提出期限は公立高等学校の提出期限をあわせることとした。  
また, 5 月 22 日開催予定の学校説明会において, 中学校長及び進路担当者に説  
明をすることとした。
4. 平成 25 年度入学生の入試成績と学力診断テスト結果について  
川邊教務主事補から, 資料 6 により報告があった。
5. その他  
特になし

(出典 平成 25 年 5 月 8 日入学試験委員会議事要旨)

## 学科長会議議事概要

- 1 日 時 平成25年11月20日(水) 16:15~17:10
- 2 場 所 小会議室
- 3 出席者 校長, 校長補佐(企画), 校長補佐(国際交流), 校長補佐(教務)・(技術教育支援センター長), 校長補佐(学生), 校長補佐(寮務), 校長補佐(専攻科), 地域共同テクノセンター長, キャリア支援室長, 電気情報工学科長, 電子制御工学科長, 物質工学科長, 建築学科長, 教養教育科長, 事務部長, 総務課長, 学生課長, 技術長
- 4 欠席者 図書館情報センター長(代理出席:奥雲副センター長), 機械工学科長(代理出席:松本至キャリア支援室長(兼務))
- 5 議事概要

### (1) 平成26年度校務分掌について

校長から, 資料1(平成26年度校務分掌決定手順)に基づき, 平成26年度の校務分掌決定のスケジュールについて説明があった。なお, このスケジュールは, 昨年度より1ヶ月程度早めたスケジュールである旨報告があった。

### (2) 本科カリキュラムの一部変更について

校長補佐(教務)から, 資料2(本科カリキュラムの一部改訂について)に基づき, 本科4年生に設置されている第二外国語(ドイツ語)に関するカリキュラム変更について報告があった。

### (3) 平成26年度科学研究費補助金の申請状況について

地域共同テクノセンター長から, 資料3(科学研究費申請・採択状況)に基づき, 平成26年度の科学研究費補助金の応募状況について報告があった。

### (4) 平成25年度外部資金等受入状況について

地域共同テクノセンター長から, 資料4(平成25年度外部資金等受入状況について等)に基づき, 11月19日までの受入状況について報告があった。

### (5) 企業・大学合同面談会について

キャリア支援室長から, 口頭により, 平成25年度の4年生に対する企業・大学合同面談会を1月25日(土)に米子コンベンションセンター国際会議室を会場に開催する旨連絡があった。

### (6) 平成25年度卒業・修了予定者の進路状況について

キャリア支援室長から, 資料5(平成25年度進路状況等)により, 現在の本科生及び専攻科生の進路状況及び昨年度同時期との進路状況の比較について報告があった。

### (7) 国立高専機構に対する会計検査院実地検査の結果への対応について

校長から, 会計検査院実地検査の結果の概略及び米子高専での対応について説明があった。

続いて, 事務部長から, 資料6(国立高等専門学校機構の会計検査院(第4局)実地検査の結果に対する対応について(通知)等)に基づき, 指摘を受けた事項の詳細

(出典 平成25年11月20日学科長会議事要旨)

資料 2 - 2 - ① - 17

## 平成 25 年度 第 2 回教務委員会議事要旨

日 時 : 平成 25 年 5 月 23 日 (木) 15:45 ~ 16:51  
 場 所 : 大会議室  
 出席者 : 教務委員会委員  
 欠席者 : 能登路第 5 学年主任 (代理: 庄倉教員), 山口企画主事補 (代理: 細田教員)  
 陪席者 : 加藤学生課課長補佐, 荒木教務・キャリア支援係長

議事要旨

(中略)

## 1. 授業参観アンケート集計結果について

川邊教務主事補から、資料 1 により昨年度と比較し、昨年度参観者が 91 名だったのが 150 名になり特に 1 年生の参加人数が増えたこと、また、アンケートの回収率も伸びたとの報告があった。

また、記述欄に、全授業時間参観出来たこと、実験・実習を興味深く見ることができ安心したとの感想があったなどの説明があった。

## 2. 平成 25 年度「前期」授業評価アンケートの実施について

校長補佐 (教務) から、資料 2 により授業評価アンケートを実施する旨連絡があった。

## 3. 低学年 (本科 1 ~ 3 年生) を対象とした質問受付教室について

南教務主事補から、資料 3 により質問受付教室の実施について説明があり、了承された。

## 4. 特別欠席について

校長補佐 (教務) から、前期中間試験期間中 (8 月 1 日から 7 日の間) の特別欠席については認められないが、資料 4 により依頼があったことの説明があり、さらに、昨年度担任であった浅倉教務主事補から事前に相談して内諾を得ていたこと、内諾があったので応募したことなど、今日までの経緯の説明があり、試験期間中の特別欠席として、今年度に限り認めることで了承された。

## 5. 科目間連絡会について

校長補佐 (教務) から、資料 5 により提案があり、各学科及び教養教育科から意見が特にないため原案とおりの承認された。

## 6. 時間割について

各学科から次のとおり意見が出た、また、教養教育科は、今回の教務委員会で報告することとなった。

- ・機械工学科: 非常勤講師の問題あり
- ・電気情報工学科, 電子制御工学科: 教員の異動等を考慮してほしい。
- ・物質工学科: 特になし
- ・建築学科: 平成 24 年度がベストでない。概ね問題あり (例えば, 卒業研究 (午前))
- ・教養教育科: 後日報告あり

(後略)

(出典 平成 25 年 5 月 23 日教務委員会議事録)

平成 24 年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨 (抜粋)

資料 2 - 2 - ① - 18

1. 日 時 平成 25 年 3 月 7 日 (木) 14:30~16:45
  2. 場 所 米子全日空ホテル 2F 飛鳥東の間
  3. 出席者 【委員】  
 田中久隆 (議長) (鳥取大学工学部長)  
 金山光一 (舞鶴工業高等専門学校副校長) 増田孝二 (米子工業高等専門学校後援会会長)  
 森脇 孝 (米子工業高等専門学校振興協力会会長) 杵築邦昌 (トヨタ自動車株式会社 製品企画本部 Z1x 主査) 金田 昭 (財団法人鳥取県産業振興機構理事長)
- 【米子工業高等専門学校】  
 齊藤正美校長 小田耕平副校長 松原孝史教務主事 森田典幸学生主事  
 新田陽一地域共同テクノセンター長  
 大山正人事務部長, 横田裕一総務課長, 古杉俊輔学生課長

## 4. テーマ 「技術者教育プログラムの改善について」

(後略)

(出典 平成 25 年 3 月 7 日評議員会議事録)

## 資料 2 - 2 - ② - 1 科目間連絡会設置要項

資料 5  
平成 25 年 5 月 23 日 教務委員会

## 科目間連絡会（仮称）の設置について（案）

平成 25 年 5 月 教務委員会資料

本校の教育を進めていく上で、科目間の連絡を図り、より効果的な教育内容に改善していくためには、学科間の連携・協議の場が必要である。そこで、科目間の連携を組織的に図るため、以下のように科目間連絡会（仮称）を設置する。

## 1. 設置目的

本科、専攻科のカリキュラムや科目内容の改善を図るため

## 2. 構成メンバー

◎教務主事

◎専攻科長

○副専攻科長

教務主事補（1名）

専門学科長

教養教育科長

学生課長

◎は委員長、○は副委員長

## 3. 位置付け

教務委員会および専攻科委員会の下に設置

## 4. 内容

- (1) 一般科目—専門科目間の連携に関すること
- (2) 専門学科間の連携に関すること
- (3) 本科—専攻科間の連携に関すること

## 5. その他

- (1) 開催日

教務委員会終了後に開催。年4回程度（25年度）

（出典 平成 25 年 5 月 23 日教務委員会資料）

### 第 3 回科目間連絡会議議事要旨 資料 2 - 2 - ② - 2

日 時 : 平成 25 年 10 月 23 日 (水) 16 : 20 ~ 17 : 15  
場 所 : 大会議室  
出席者 : 科目間連絡会委員, 稲田校長補佐 (専攻科), 中井外国語代表  
欠席者 : 山本電子制御工学科長 (能登路 5 年主任が代理出席)  
陪席者 : 城間教務・キャリア支援係員, 近江教務・キャリア支援係員

#### 議事要旨

1. 竹中校長補佐 (教務) から、低学年の学生への学習支援について委員に意見を求められた。  
南教務主事補から、1 年生の数学・物理科目の成績不良者に対して重点的に指導を行っていきたいと提案された。

(後略) (出典 平成 25 年 10 月 23 日科目間連絡会議議事録)

資料 2 - 2 - ② - 3

平成 25 年 11 月 6 日

各 位

校 長

教員会議の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催するので通知します。

記

1 日 時 平成 25 年 11 月 6 日（水）15：45～

2 場 所 大 会 議 室

3 議 題

(1) シラバスについて・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 1）

(2) 平成 25 年度追認試験結果一覧表の確認について

(3) 平成 25 年度授業評価アンケートの実施について・・・・・・・・（資料 2）

(4) 平成 25 年度第 2 回オープンキャンパスについて・・・・・・・・（資料 3）

(5) 学生の異動について・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 4）

(6) 学生事故について・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 5）

(7) 各種大会成績について・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 6）

(8) 退寮生について・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 7）

(9) 男子寮の点呼方法の変更について・・・・・・・・（資料 7）

(10) 10 月の寮行事報告について・・・・・・・・（資料 7）

(11) 11 月の寮行事予定について・・・・・・・・（資料 7）

(12) 平成 26 年度専攻科学力・社会人特別選抜検査について・・・・（資料 8）

(13) 平成 25 年度前期地域貢献活動の実施状況について・・・・（資料 9）

(14) 平成 25 年度米子高専振興協力会特別講演会について

(15) その他

（出典 平成 25 年 11 月 6 日教員会議資料）

## シラバスの改訂について

教務・専攻科

平成25年11月

## シラバスの変更点

- 学習教育目標
- 到達目標
- 授業の進め方とアドバイス  
    **自学自習時間の明記**
- 関連教科

## 科目系統図

- 本校の科目系統図は**3つ**

- ① 本科1年～専攻科2年までの系統図
- ② MEDC科の**本科4年～専攻科2年用**  
JABEE複合システムデザイン工学プログラム系統図  
(**複合PRG**)
- ③ A科の**本科4年～専攻科2年用**  
JABEE建築学プログラム系統図  
(**建築PRG**)

※ 授業科目によって参照する系統図が異なる

## 学習教育目標 (本科1～3年)

学年		課程科目		単位数	
区分		授業の形態		専攻区分	
教務区分					
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標			

本科1年～専攻科2年の系統図を参照して  
(A)～(E)の記号を記入してください

## 学習教育目標 (本科4年以上)

### 専門科目

関連する本校の学習教育目標	C-1, E-3	関連するJABEE学習教育目標	f, g
---------------	----------	-----------------	------

### 一般科目等

関連する本校の学習教育目標	複合PRG: E-1 建築PRG: E-2	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG: f 建築PRG: f
---------------	--------------------------	-----------------	----------------------

複合PRGまたは建築PRGの系統図を参照して  
(A)-1等の記号を記入してください

## 学習教育目標とJABEE基準の対応

### 複合PRG

学習・教育課程目標	(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	
大項目	小項目												
A	A-1			●									
	A-2	●	○										
	A-3			○	●								
	A-4			○		●							

※ 平成25年度の学生便覧は改訂前のものです

### 建築PRG

学習教育目標	a	b	c	d					e	f	g	h	
大項目	小項目												
				d1	d2	d3	d4	d5	2				
A	A-1			●									
	A-2				●	●							
	A-3						●						
	A-4								●	●			

資料 2 - 2 - ② - 3  
2013/11/06

### JABEE基準（本科4年以上）

#### 専門科目

関連する本校の学習教育目標	C-1, E-8	関連するJABEE学習教育目標	f, g
---------------	----------	-----------------	------

#### 一般科目等

関連する本校の学習教育目標	複合PRG: E-1 建築PRG: E-2	関連するJABEE学習教育目標	複合PRG: f 建築PRG: f
---------------	--------------------------	-----------------	----------------------

複合PRGまたは建築PRGの対応表を参照して◎のJABEE基準（記号）を記入してください

### 到達目標

関連する本校の学習教育目標		関連するJABEE学習教育目標	
到達目標	(1) ○○することができる。 (2) ○○することができる。 (3) ○○することができる。		

※ ○○することができるという表現に修正してください

### 自学自習時間と内容

到達目標	
授業の進め方とアドバイス	(略) なお、質問は昼休憩および放課後に研究室で随時受け付ける。 また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。 ・授業内容を理解するため、予め配布したプリント（教科書）で予習する。 ・授業内容の理解を深めるため、復習を行う。 ・毎時間、課題を与えるので、レポートを作成する。 ・定期試験の準備を行う。

※ 本科4・5年生の学修単位科目および専攻科の全科目（実験・実習科目以外）が対象です

- 自学自習時間  
マニュアルに**計算方法**を記載しました  
※ **D科専門科目**および**専攻科の演習・実習・実験科目**は注意が必要です
- 自学自習の内容  
マニュアルに**例**を記載しました
- エビデンスの保管  
事前配布した**プリント**や**レポート**はスキャンして保管してください

### 関連教科

教科書	
参考書	
関連教科	数学 I, 微分・積分, 物理 I
基礎知識	

※ 専門科目は、関連する一般科目の科目名を記入してください（一般科目と専門科目の関連性を示すため）

### 問合せ先

- 本科1～3年生  
大塚宏先生（M科、教務主事補）
  - A科4・5年生および建築学専攻  
細田先生（A科、JABEE委員・企画主事補）
  - 上記以外  
小川（C科、専攻科長補）
- ※ シラバス入力準備が整い次第、メールでご連絡します



## 資料 2 - 2 - ② - 3

シラバス内の記号 A-1～E-3 の補足資料

**6. JABEEについて**

JABEEとは日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education : <http://www.jabee.org/>）の略称で、大学や高専などの高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していることを認定することを主な活動としています。

JABEEに認定された高等教育機関の修了生は、国際的に通用する技術者教育を受けたものと証明され、さらに国家資格である「技術士」の1次試験も免除されます。したがって、本校がJABEEに認定されたことで、卒業生の社会的評価が高まり、産業界での活動も有利となります。本校では、下記の2つの教育プログラムを設けています。いずれの教育プログラムも、本科4、5年と専攻科1、2年が対象となります。

**6.1 複合システムデザイン工学プログラム**

機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科および物質工学科の本科4学科と生産システム工学専攻および物質工学専攻の2専攻では、工学（融合複合・新領域）関連分野のJABEEプログラムを設けています。

**(1) 育成しようとする技術者像**

複合システムデザイン工学プログラムでは、生産システム工学専攻と物質工学専攻が共有する理念である「複合」と「システムデザイン」をキーワードとし、自らの深い専門知識と幅広い工学分野の知識を複合化して創造的なものづくりができる自立した技術者の育成を目指しています。

**(2) 学習・教育到達目標**

本プログラムの学習・教育到達目標は、以下の能力、知識、技術を身につけることとしています。

**(A) 技術者としての基礎力**

- 〈A-1〉 数学、自然科学に関連した基礎知識を修得し、それらを駆使して専門分野の解析、理解に活用することができる。
- 〈A-2〉 技術を支える文化・社会的背景や問題に関心を持ち、専門分野の技術と文化・社会との関わりを念頭において行動できる。
- 〈A-3〉 全ての工学分野の底辺を支える基盤となる幅広い基礎知識を修得し、それらを複合的に駆使して様々な分野における現象の測定や解析、情報処理、設計・製造などに活用できる。
- 〈A-4〉 機械・電気電子・物質工学などの各自の専門に関連した分野について、様々な技術的問題を解決するための基礎として必要とされる知識を修得する。

**(B) 持てる知識を使う応用力**

- 〈B-1〉 学習した専門基礎知識を体験的に理解し、それらを実証する方法の基礎を修得する。

## 資料 2-2-②-3

シラバス内の記号 A-1～E-3 の補足資料

〈B-2〉グループまたは個人で研究課題に取り組み、解決すべき問題と課題を認識して、行動計画を立案実行できる。また、進捗に応じて計画を適宜修正しながら問題解決を行うことができる。

〈B-3〉身に付けた専門知識を活用し、種々の制約条件の下で創造的な問題解決を行うことができる。

**(C) 社会と自らを高める発展力**

〈C-1〉研究の遂行や問題解決に必要な情報を自ら収集し、様々なツールを用いて分析・活用しながら研究等を進めることができる。

〈C-2〉異なる専門分野の技術者等と協働し、必要に応じて他分野の知識も応用しながらチームとして問題解決を行うことができる。

**(D) 地球の一員としての倫理力**

〈D-1〉様々な工学分野における技術的視点から、工学理論の歴史、複合的先端技術への応用のための問題解決手法、情報セキュリティや安全性について修得し、それらを行動規範とすることができる。

〈D-2〉技術立国擁立に必要な不可欠な知的財産権などの社会背景や具体的な特許明細の書き方などを修得する。

**(E) 社会とかかわるためのコミュニケーション力**

〈E-1〉専門的な英語の文献を読み、理解するとともに問題解決に必要な情報を取捨選択できる。

〈E-2〉問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞いてそれを理解し、自己及び他者が取るべき行動を判断し、適切に作業を進めることができる。

〈E-3〉専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

## 資料 2 - 2 - ② - 3

シラバス内の記号 A-1～E-3 の補足資料

## (3) 学習・教育到達目標および JABEE 目標の関連

本教育プログラムにおける本校の学習・教育到達目標と JABEE 目標の関連を以下に示します。

学習・教育到達目標		(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
大項目	小項目				(1)	(2)	(3)	(4)					
A	A-1			◎									
	A-2	◎	○										
	A-3			○	◎								
	A-4			○	◎								
B	B-1			○		◎							
	B-2					○		◎			◎	○	
	B-3						◎	◎	◎			◎	
C	C-1					○			○	○	◎		
	C-2				○		◎				○	○	◎
D	D-1	○	◎		◎				○				
	D-2		◎					◎					
E	E-1									◎			
	E-2									○			◎
	E-3									◎			

(凡例 ○関連する項目) ◎深く関連する項目)

なお、JABEE 教育目標とは以下の (a)～(i) の 8 種類の能力を身に付けることです。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
  - (1) 専門工学（工学（融合複合・新領域）における専門工学の内容は申請高等教育機関が規定するものとする）の知識と能力
  - (2) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
  - (3) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決する能力
  - (4) （工学）技術者が経験する実務上の問題点と課題を解決し、適切に対応する基礎的な能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力

## 資料 2 - 2 - ② - 3

シラバス内の記号 A-1～E-2 の補足資料

- (g) 自主的，継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

**6.2 建築学プログラム**

建築学科および建築学専攻では，建築技術者資格である建築士の受験資格の取得や U I A（国際建築家連合）基準に対応した大学院 J A B E E への継続性を考慮して，「建築学および建築学関連分野」の J A B E E プログラムを設けています。

**(1) 育成しようとする技術者像**

建築学プログラムでは，建築学に関して高度な知識と技術を身につけ，幅広い視野に立って問題解決できる創造性豊かで自立した技術者の育成を目指しています。

**(2) 学習・教育到達目標**

本プログラムの学習・教育到達目標は本校の 5 つの学習・教育目標（A～E）を基礎として，建築学科および建築学専攻としてわかりやすい表記としたもので，以下の能力，知識，技術が身につくこととしています。

**(A) 技術者としての基礎力**

- 〈A-1〉 数学，自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた体系的な知識・技術
- 〈A-2〉 社会・環境に配慮して建築を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- 〈A-3〉 安全で合理的な建築の構造を計画・設計するために必要な基礎知識・技術
- 〈A-4〉 建築の生産と保存・再生および防災を計画・管理するために必要な基礎知識・技術

**(B) 持てる知識を使う応用力**

- 〈B-1〉 建築に関わる社会的・地域的な視点を養い，よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し，機能的に計画・設計できる知識・技術
- 〈B-2〉 建築の室内及び外部空間において，エネルギー負荷を考慮しつつ快適かつ適正な環境を保持するための環境要素の予測・評価・調整に関する知識・技術
- 〈B-3〉 建築構造物の内外で安心して生活が営まれるよう，構造上安全かつ経済的な建築空間ならびに構造種別・形式を選択できる知識・技術
- 〈B-4〉 持続可能な社会を念頭におき，建築に関わる生産，保存再生，環境負荷の低減かつ防災を意図した計画技術

**(C) 社会と自らを高める発展力**

- 〈C-1〉 建築分野の基礎的な知識や技術を活かし，問題を解決するための実践的な知識
- 〈C-2〉 建築分野の基礎的な知識や技術を活かし，新たな提案を発する能力

**(D) 地球の一員としての倫理力**

- 〈D-1〉 日本や世界の文化や歴史を多面的に認識し，建築技術が社会に与える影

資料 2 - 2 - ② - 3

シラバス内の記号 A-1～E-2 の補足資料

響を理解する能力  
 (D-2) 誠実かつ信頼される技術者としての誇りと責任感  
**(E) 社会とかかわるためのコミュニケーション力**  
 (E-1) 日本語により論理的な記述, 口頭発表, 討議等ができる能力  
 (E-2) 英語文献などの読解力と基本的な英語コミュニケーション能力

**(3) 建築学科および建築学専攻の学習・教育到達目標および JABEE 目標の関連**

本プログラムの学習・教育到達目標と JABEE 目標には密接な関連があります。

以下にその関連を示します。

JABEE 教育目標 と本校の「建築学」 教育プログラムの 学習・教育到達目標と の対応	a	b	c	d						(2)	e	f	g	h
				(1)										
				d1	d2	d3	d4	d5	d6					
A	A-1			◎										
	A-2					◎	◎							
	A-3							◎						
	A-4								◎	◎				
B	B-1				◎	◎					○	◎		
	B-2						◎				○			
	B-3							◎			○			
	B-4								◎	◎	○			
C	C-1				○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
	C-2				○					◎	◎	◎	◎	◎
D	D-1	◎	◎											
	D-2		◎										○	
E	E-1											◎		
	E-2											◎		

(凡例 ○関連する項目 ◎深く関連する項目)

なお, JABEE 教育目標とは以下の (a)～(h) の 8 種類の能力を身につけることです。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果, および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解 (技術者倫理)
- (c) 数学, 自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力
- (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力
- (e) 種々の科学, 技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 日本語による論理的な記述力, 口頭発表力, 討議等のコミュニケーション能

資料 2 - 2 - ② - 3

シラバス内の記号 A-1～E-2 の補足資料

力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力

- (g) 自主的, 継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め, まとめる能力

項目 (d) の建築学分野に関しては次のような下位項目があります。

- (1) 建築学分野の包括的な専門的知識・能力
  - (d1) 建築設計演習に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  - (d2) 建築計画に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  - (d3) 建築環境・設備に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  - (d4) 建築構造に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  - (d5) 建築生産 (材料・施工を含む) に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  - (d6) 分野横断領域等に関する包括的, 基礎的な専門知識・能力
  
- (2) 建築に関わる特定領域の高度な専門的知識・能力  
特定領域 (2) は, 上記 (1) の (d1) から (d6) の各項目において, さらに発展させた知識を持ち, それを実務に適用しうる能力を保証する「包括総合」としています。

(出典 平成 26 年度学生便覧 P.9)

資料 2 - 2 - ② - 4

件 平成25年度第11回教務委員会の開催について  
名:

日 2014年3月11日火曜日 13時01分54秒 日本標準時  
付:

差 教務・キャリア支援係  
出  
人:

宛 教務主事 竹中敦司, 教務主事補 南 雅樹, 教務主事補 川邊 博, 教務主事補 浅倉邦彦, 教務主  
先: 事補 大塚宏一, キャリア支援室長 松本 至, 学科長 機械 森田慎一, 学科長 電気 松本正己,  
学科長 電子 山本英樹, 学科長 物質 小田耕平, 学科長 建築 玉井孝幸, 学科長 教養教育  
竹内彰継, 副専攻科長 小川和郎, 第1学年主任 大庭経示, 第2学年主任 中山繁生, 第3学  
年主任 中井大造, 第4学年主任 矢壁正樹, 第5学年主任 能登路 淳, 学生課長 古杉俊輔,  
企画主事補 山口顕司, 企画主事補 細田智久

CC: 教務・キャリア支援係

平成26年3月11日

教務委員会委員 各位

教務主事

平成25年度 第11回教務委員会の開催について(通知)

標記のことについて、下記のとおり開催しますのでお集まりください。  
なお、教務委員会を欠席される場合は、事前に教務・キャリア支援係  
へ連絡願います。

また、教務委員会終了後、引き続き大会議室において科目間連絡会  
を開催しますので、該当されます委員の方はお集まりください。

記

日時：平成26年3月20日(木) 15:00～  
場所：大会議室

議 題

1. 専攻科生TAを活用した低学年の学習支援の結果について
2. 平成25年度第1学年の入学後の成績追跡について
3. 平成25年度「学習到達度試験(数学・物理)」の集計結果について
4. 平成26年度学生数について
5. 平成26年度教室の配置(案)について
6. 平成26年度始業式当日の日程(案)について
7. 平成26年度入学式後の日程(案)について
8. 平成26年度大山オリエンテーションの日程(案)について
9. 平成26年度時間割について
10. 図書館改修後の図書館情報センターの部屋利用について
11. 平成26年度授業参観の実施について
12. その他

【科目間連絡会】

議 題

1. シラバスに関する関連教科と基礎知識について
2. 化学と基礎化学の取扱いについて

※発送時現在の議題で変更になる場合があります。

\*\*\*\*\*  
米子工業高等専門学校  
学生課教務・キャリア支援係 荒木祥子  
〒683-8502鳥取県米子市彦名町4448

Page 1 of 2

(出典 平成 26 年 3 月 20 日科目間連絡会開催通知メール)

資料2-2-②-4

シラバス内の関連科目、基礎知識の入力状況整理表

区分	授業科目	単位数	形態	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
基礎 必修 科目	国語 I	4	4						
	国語 II	3							
	国語 III	3							
	現代社会 I	2							
	歴史 I	2							
	歴史 II	2							
	歴史 III	3							
	数学 I	3							
	数学 II	3							
	代数学 I	2							
	代数学 II	2							
	情報リテラシー I	1							
	物理 I	2							
	物理 II	2							
	化学 I	3(0)							
	化学 II	2(0)							
	生物	2							
	健康・体育 I	3							
	健康・体育 II	2							
	健康・体育 III	2							
	健康・体育 IV	2							
	健康・体育 V	1							
	音楽 I	1							
	音楽 II	1							
	英語総合 I	3							
	英語総合 II	3							
	英語総合 III	3							
	英語総合演習 I	2							
	英語総合演習 II	1							
	英語総合演習 III	1							
	英語総合演習 IV	1							
	英語総合演習 V	1							
	英語総合演習 VI	1							
	英語総合演習 VII	1							
	英語総合演習 VIII	3							
	履修単位計	81	32	95	16	7	1	1	
	文芸	I *2	27(29)	25(23)	16	7	1	1	前期 後期
	文芸	II *2							前期 後期
	文芸	III *2							前期 後期
	文芸	IV *2							前期 後期
	社会科学 I	*2							このうちから、 前後期で異なる 2科目4単位を 選択する。
	社会科学 II	*2							
	社会科学 III	*2							
	社会科学 IV	*2							
	実用工業英語 I	2							
実用工業英語 II	2								
英米文学	2								
英米文学演習 I	2								
英米文学演習 II	2								
英米文学演習 III	2								
英米文学演習 IV	2								
英米文学演習 V	2								
英米文学演習 VI	2								
英米文学演習 VII	2								
英米文学演習 VIII	2								
英米文学演習 IX	2								
英米文学演習 X	2								
英米文学演習 XI	2								
英米文学演習 XII	2								
英米文学演習 XIII	2								
英米文学演習 XIV	2								
英米文学演習 XV	2								
英米文学演習 XVI	2								
英米文学演習 XVII	2								
英米文学演習 XVIII	2								
英米文学演習 XIX	2								
英米文学演習 XX	2								
英米文学演習 XXI	2								
英米文学演習 XXII	2								
英米文学演習 XXIII	2								
英米文学演習 XXIV	2								
英米文学演習 XXV	2								
英米文学演習 XXVI	2								
英米文学演習 XXVII	2								
英米文学演習 XXVIII	2								
英米文学演習 XXIX	2								
英米文学演習 XXX	2								
英米文学演習 XXXI	2								
英米文学演習 XXXII	2								
英米文学演習 XXXIII	2								
英米文学演習 XXXIV	2								
英米文学演習 XXXV	2								
英米文学演習 XXXVI	2								
英米文学演習 XXXVII	2								
英米文学演習 XXXVIII	2								
英米文学演習 XXXIX	2								
英米文学演習 XXXX	2								
英米文学演習 XXXXI	2								
英米文学演習 XXXXII	2								
英米文学演習 XXXXIII	2								
英米文学演習 XXXXIV	2								
英米文学演習 XXXXV	2								
英米文学演習 XXXXVI	2								
英米文学演習 XXXXVII	2								
英米文学演習 XXXXVIII	2								
英米文学演習 XXXXIX	2								
英米文学演習 XXXXX	2								
英米文学演習 XXXXVI	2								
英米文学演習 XXXXVII	2								
英米文学演習 XXXXVIII	2								
英米文学演習 XXXXIX	2								
英米文学演習 XXXXX	2								
英米文学演習 XXXXVI	2								
英米文学演習 XXXXVII	2								
英米文学演習 XXXXVIII	2								
英米文学演習 XXXXIX	2								
英米文学演習 XXXXX	2								

※1 表中の「化学Ⅰ」、「化学Ⅱ」、「基礎化学」、「生物化学」及びそれぞれの詳細については、( ) は物質工学科の単位数を示す。  
 ※2 単位数に「\*」を添えてある科目は学年単位数を示し、記していない科目は履修単位数を示す。  
 履修単位数: 単位の授業科目を30単位修得(1単位の修得は、標準5分)の履修とする単位。  
 学年単位数: 当該授業及び授業時間内の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成26年3月20日科目間連絡会資料)



資料 2-2-②-4 シラバス内の関連科目、基礎知識の入力状況整理表

電気情報工学科 教育課程表

区分	授業科目	単位	形態	学級別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気情報応用実験Ⅰ	3	実験				3		
	電気情報応用実験Ⅱ	3	実験				3		
選択科目	卒業研究	8	その他					8	
	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
応用科目	応用物理学Ⅰ	2	講義				2		
	応用物理学Ⅱ	2	講義				2		
電	電気概論	1	講義	1					
	電気概論Ⅱ	2	講義		2				
電	電気磁気学Ⅰ	2	講義		2				
	電気磁気学Ⅱ	2	講義		2				
電	電気回路Ⅰ	2	講義		2				
	電気回路Ⅱ	2	講義		2				
電	電気計測Ⅰ	1	講義		1				
	電気計測Ⅱ	2	講義		2				
電	電子デバイスⅠ	2	講義		2				
	電子デバイスⅡ	2	講義		2				
電	電気機器Ⅰ	2	講義		2				
	電気機器Ⅱ	2	講義		2				
電	電子回路Ⅰ	2	講義		2				
	電子回路Ⅱ	2	講義		2				
電	電力工学	2	講義		2				
	制御工学	2	講義		2				
電	情報処理Ⅰ	2	講義		2				
	情報処理Ⅱ	2	講義		2				
必修科目	プログラミングⅠ	2	講義		2				
	プログラミングⅡ	2	講義		2				
必修科目	コンピュータ工学	2	講義		2				
	ネットワーク工学	2	講義		2				
必修科目	電気情報基礎実験Ⅰ	2	演習		2				
	電気情報基礎実験Ⅱ	2	演習		2				
必修科目	電気情報工学演習Ⅰ	2	演習		2				
	電気情報工学演習Ⅱ	2	演習		2				
必修科目	技術者倫理	2	講義		2				
	校務実習Ⅰ	85	実習	7	9	18	27	24	
必修科目	パワーエレクトロニクス	2	講義					2	前期開講
	ソフトウェア工学	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
選択科目	エレクトロニクス	2	講義					2	2科目2単位を選択する。
	通信工学	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
選択科目	高圧工学	2	講義					2	2科目2単位を選択する。
	数値計算工学	2	講義					2	1科目3単位を選択する。
選択科目	電子回路設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。
	電気回路法規	1	講義					1	1科目1単位を選択する。
開	開校単位合計	106		7	9	18	30	42	
	開校単位合計	95		7	9	18	28	33	

※ 単位取得に「●」を記してある科目は卒業単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。  
履修単位(1単位の授業科目を1単位の履修時間(1単位時間)として履修し、標準50分の履修による単位。  
卒業単位(当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。)

(出典 平成 26 年 3 月 20 日科目間連絡会資料)

資料 2-2-2-②-4 シラバス内の関連科目、基礎知識の入力状況整理表

生産システム工学専攻 教育課程表

区分	授業科目	学年別開設単位数				講義実験 演習の区別	備考
		1年	2年	前期	後期		
一般選	コミュニケーション特論	2	2	2	2	講義	
	日本語表現法	2	2	2	2	講義	
	人文社会科学分野	2	2	2	2	講義	
	健康科学特論	2	2	2	2	講義	
	応用数学特論	2	2	2	2	講義	
	現代物理学	2	2	2	2	講義	
	開設単位数(2単位以上)	6	4	0	0		
	基礎知識						
	基礎知識						
	基礎知識						
専門共通科目	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	応用数学特論	2	2	2	2	講義	
	現代物理学	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
必修	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
選択	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
専門科目	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	
	基礎知識	2	2	2	2	講義	

(出典 平成 26 年 3 月 20 日科目間連絡会資料)

資料 2 - 2 - ② - 5

資料 2

平成 26 年 3 月 20 日 科目間連絡会

平成 26 年度以降の 1 年の化学と基礎化学の取扱いについて

2014/3/10 物質工学科科会資料

2014/3/20 科目間連絡会資料

化学の評価がクラスごとに差があり過ぎるという点から、ここ二年間にわたって基礎化学を含めて定期試験を共通問題とすることによって評価をできる限りそろえるようにしていたが、以下の通り化学と基礎化学の扱いについて改めたい。

(変更点)

- (1) 定期試験は基礎化学と化学を別々に作成する。ただし、化学は従前通り共通問題とする。
- (2) 化学で 5 回実施している実験のうち「中和滴定」の実験を取りやめ、4 回に削減することによって座学の授業を約 3 時間増やす。
- (3) 基礎化学で 5 回実施している実験のうち、「中和滴定」を物質工学基礎実験に移し、座学の授業をおよそ 3 時間増やす

(変更理由)

- (1) 基礎化学の定期試験の内容を、他学科の容易にした化学の内容と同じにすることは、基礎化学が 2 年以上の専門科目のベースとなっている物質工学科としては好ましくない
- (2) 学習指導要領の変更に伴って検定教科書の内容が増加したため、1 年次で学習すべき内容を、化学および基礎化学において年間 90 時間の授業 (5 回の実験を含む) で消化しきれなくなった。

(出典 平成 26 年 3 月 20 日科目間連絡会資料)

## 科目間連絡会議事録

日時：平成 26 年 5 月 27 日（火）16:00-17:00 会場：小会議室

出席者：教務主事（校長補佐（教務））、教務主事補（校長補佐（教務）補）、副専攻科長、  
数学科目代表、物理科目代表、英語科目代表、学科長、企画主事補（校長補佐（企画）補）

議題：1) 学習支援方法の見直し  
2) 数学、物理、英語科目における教養教育科 科目代表教員と専門学科長などとの教育連携

### 1) 学習支援方法の見直し

教務主事説明：資料 1（学生 TA による学習支援方法）・資料 2（TOEIC 特別講座）による  
教務主事補より資料 1 について説明

変更点：現在の専攻科 TA を学生 TA（本科 4 年～専攻科 2 年）に変更  
学生 TA 成績低下を招かないよう配慮

数学教員より

実施したうえで状況を精査し、都度今後の実施を検討する  
オフィスアワーについては、担当教員が待機し学生は自由に入室している

物理教員より

物理も状況は同様である  
数学・物理が別々ではなく一緒に実施している状況

教務主事補より資料 2 について説明

英語教員より

英語科については、TOEIC より基礎英語について実施希望  
当初は TOEIC 対象でよいが、今後は基礎英語を希望  
TOEIC となると、外部講師の確保が困難  
（TOEIC 経験者の確保・時間帯の調整が困難）

各学科長等より

英語は TOEIC を目指すものだけでなく、英語の苦手な学生の救済が必要

教務主事より

外部講師による数学基礎は TOEIC 英語の状況を見てから検討  
長期休業中は実施しない

（中略）

2) 数学、物理、英語科目における教養教育科 科目代表教員と専門学科長などとの教育連携

数学教員より

学力の低下が目立つ

物理教員より

教員の話や指示を聞いていない学生もいる状況

英語教員より

基礎で躓いている学生がいる

教務主事補より

第2志望で本校に入学した学生のモチベーション低下がみられる

物理教員より

モチベーションの低下した学生もいるが、逆に発奮し上を目指し編入学などで著名な大学等へ入学する学生もいる

数学教員より

中学数学と高専数学との連携に配慮した科目として、

専門科目に電気では電気数学は一般教育科目とリンクした科目があるが他学科にもあるか

各学科長等より

電子及び物質に近似な科目がある

## 平成 25 年度第 2 回教養教育科科会議事録

日 時：平成 25 年 5 月 30 日(木)15：45～17：15

場 所：大会議室

出席者：池本、川邊、酒井、竹内、永井、布施、山藤、加藤、中島、能登路、原、  
松崎、大野、小林、中川、堀畑

### 1. 報告・連絡事項

#### 1.1. 学科長会議(5 月 15 日)報告・連絡事項

- ①平成 25 年度「新入生に対するアンケート調査」の分析結果について報告された
- ②心と体の健康調査(自殺防止のためのチェックリスト)について、
- ③境港市との包括連携協定について紹介された。
- ④科学研究費補助金について、前年度の結果について聴取があることが連絡された。
- ⑤平成 25 年度外部資金など受入状況について紹介された。
- ⑥その他

#### 1.2. 入試委員会(5 月 8 日)報告・連絡事項

- ①平成 26 年度編入学生選抜検査について、
- ②平成 26 年度以降の本科入学者選抜検査に係る提出書類の追加について連絡された。
- ③平成 25 年度入学生の入試成績と学力診断テストの結果について報告された。

#### 1.3. 入試委員会(5 月 22 日)報告・連絡事項

- ①2014 年度第 3 学年編入学試験〔外国人学生対象〕の実施について連絡された。
- ②その他

#### 1.4. 教務委員会(5 月 23 日)報告・連絡事項

- ①授業参観アンケートの結果について報告された。
- ②平成 25 年度「前期」授業評価アンケートの実施について、
- ③低学年(本科 1～3 年)を対象とした質問受付教室について連絡された。
- ④特別欠席について連絡された。
- ⑤科目間連絡会について、教務委員会での議論の結果が報告された。
- ⑧業務用端末について、業務用端末への切り替え期限が 9 月末で前期末試験の成績は業務用端末で入力することが連絡された。
- ⑨特別日課及び特別行事の日程について連絡された。
- ⑩校外研修旅行の取り扱いについて教務原案が紹介され、文言を修正したほうが良いとの意見が出て、次回教務委員会までに修正案を学科長まで提出することとなった。
- ⑪その他  
(後略)

(出典 平成 25 年 5 月 30 日教養教育科科会議事録)

## 資料 2 - 2 - ② - 8

平成 25 年度 第 19 回建築学科会議 議事録

日時 2013 年 10 月 17 日 15:45~

出席者 □熊谷 ■山田 ■稲田 ■前原 ■西川 ■高増 ■細田  
□金澤 ■北農 ■小椋 ■景山 ■上田 ■玉井

議事

## ■Ⅰ 審議事項

- 1 学生の状況について
- 2 オープンキャンパス第 2 回について
- 3 学生のデザコンへのかかわりについて
- 4 大山町急速充電器保護小屋建設について

## ■Ⅱ 報告事項

- 1 卒業研究・設計 ポスターセッションについて
- 2 日本建築学会 卒業設計展
- 3 11/12 振興協力会特別講演会 ホテルサンルート米子 16:00~懇親会 18:00~
- 4 島根県 住宅耐震講座 O.G 古安さんより
- 5 建築棟 1 階 振動試験機など工事スタート 騒音・振動あり 11 月末まで
- 6 台風による休講の代講日 スポレク 12/18
- 7 インターンシップ報告会 10/18 9:10~ 講義室 2

## ■Ⅲ その他

- ・地域みらいより、南部町での WS など案内あり
- ・専攻科委員会資料 レビューについて H28 年度  
(中略)

次回 科会 10 月 24 日 15:45~

(出典 平成 25 年 10 月 17 日建築学科科会議事録)

## 資料 2 - 2 - ② - 9

教養教育科と建築学科との教員懇談会議事録(抜粋)

日時 2013 年 6 月 12 日(水) 15:45~17:15 場所 小会議室

出席者

教養教育科

竹内(物理、教養教育科長)、中井(英語)、酒井(英語、昨年度 2A 担任)、倉田(数学)、  
布施(社会)、原(国語、2A 担任)、松崎(国語、1A 担任)、大庭(数学、昨年度 1A 担任)、  
大野(保体)

建築学科

玉井学科長、山田、稲田、前原、高増、金澤、北農、小椋、細田(記録)

議題

1. JABEE 建築学プログラムについての確認  
資料 1 前回議事録の配布、資料 2 学習・教育目標と各科目との関連表の確認、  
資料 3 学年進行と科目との関連表の確認
2. 前回 2011 度末の学年別の良い点などについての確認：前回議事録より
3. 情報交換、科目間連携、留意事項など
  - 3-1. 教養教育科教員からの最近の建築学生の状況やご意見
  - 3-2. 建築学科教員からの学生の状況について
  - 3-3. 注意が必要な学生の状況など、ディスカッション

(後略)

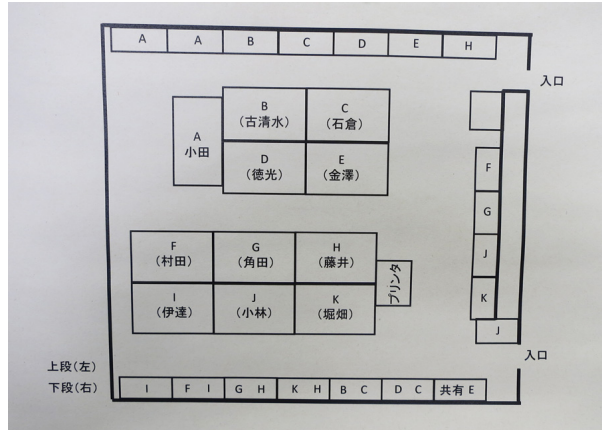
(出典 平成 25 年 6 月 12 日 教養教育科と建築学科との教員懇談会議事録)

資料 2-2-③-1

合同教員室 室内写真



合同教員室 室内レイアウト



(出典 合同教員室写真)

国立米子工業高等専門学校様 資料 2-2-③-2

新規採用職員研修カリキュラム

ビジネスマナーの基本習得

目的: 仕事に必要なビジネスマナーと社会人が持つべき一般常識をマナーを通して確認する。  
更にマナーの表現の意味を捉え、臨機応変に状況に合わせ発揮できる力を養う

2013年4月25日(木) 9:30~16:30(6時間)

時間	内容	ねらい
9:30	<p>■オリエンテーション ～社会人が持つべきビジネスマナーと その考え方を理解する～</p> <p>①円滑な仕事のためのビジネスマナーの役割 ②ビジネスマナーとビジネスルールの違いを知る ③ビジネスマナーの5原則の理解</p> <p>■印象管理と信頼性の伝達 ～5つの原則を踏まえ、項目ごとに習得～</p> <p>①挨拶でやる気の伝達 ・挨拶の3つの要素の理解(言葉、表情、お辞儀) ②言葉づかいでの気配り ・敬語の基本と会話での活用の仕方 ・クッション言葉とお願いお断りでの活かし方</p>	<p>相手視点での発想とCSの意識が、重要な項目であることを知り、自らの役割と、社会人として求められる力を理解する</p> <p>お客様視点に基づいた表現方法をトレーニングで体得し、信頼性を伝える表現力を身につける</p> <p>グループワークとロールプレイ</p>
12:00	□お昼休憩(60分間)	
13:00	<p>③社会人の身だしなみ ・身だしなみの基準と考え方</p> <p>■電話対応の基本習得</p> <p>①電話の出方、取次ぎ ③電話の不在対応</p> <p>■お客様の期待に応える応対</p> <p>①名刺の扱い方と交換の仕方 ②分かりやすい案内、指し示し ③席次の基準</p>	<p>ビジネス電話で「当たりまえ」とされる受け答え、相手に敬意を示すことのできるコツを理解する</p> <p>基本応対を踏まえた来客対応で、お客様からの信頼を得る</p> <p>グループワークとロールプレイ</p>
16:10 16:30	<p>■今後職場で取り組むこと確認 (終了)</p>	<p>自職場で必要なマナー、表現を確認する</p>

※お昼の12:00~13:00まで1時間休憩をはさみます

ゴールイメージ

社会の一般的ルール(マナー)を身につけることの重要性に気づき、今後直面する様々な局面で主体的に判断し行動できるための基盤となる

(出典 総務課総務係資料)



資料 2 - 2 - ③ - 3

**資料 1**

24.10.17 学科長会議資料

平成 24 年度教育研究活性化経費の配分について

(略)

【新任・若手教員支援研究費】

(1)《新任教員支援研究費》(配分：本校に採用後2年以内の教員1名につき 200千円)

(単位：円)

番号	氏名	所属学科等	採用年月	配分額	摘要
1	前原 勝樹	建築学科	平成23年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
2	伊達 勇介	物質工学科	平成23年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
3	村田 和加恵	〃	平成23年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
4	小林 玉青	一般科目	平成24年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
5	角田 直輝	電子制御工学科	平成24年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
6	藤井 貴敏	物質工学科	平成24年4月	200,000	(24.6.20運営会議承認済)
7	堀畑 佳宏	一般科目	平成24年10月	200,000	
	合計			1,400,000	

(略)(出典 平成 24 年 10 月 17 日学科長会議資料)

目次 資料 2 - 2 - ③ - 4

**取扱秘**

**教務便覧**

平成 22 年 3 月 31 日改定

国立高等専門学校機構

米子工業高等専門学校

教務年間事業一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第 1 章 学級担任業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1 個人指導記録及び学生指導要録の記入・・・・・・・・ 3

2 学級役員の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 個人面接（面談）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4 週番日誌の点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

5 特別活動の指導，特活日誌の点検（1，2，3 学年）・・・・ 9

6 諸行事の指導・引率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

7 学校行事出席簿の点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

8 出欠状況の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

9 担任会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

10 保護者懇談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

11 諸願・諸届の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

12 選択科目の履修（4，5 学年）・・・・・・・・・・・・・・ 10

13 異常発生時の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

14 座席，ロッカー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

15 教室の管理（諸用具，設備，清掃状況等）・・・・・・ 11

16 未修得教科を持つ学生の指導・・・・・・・・・・・・・・ 11

17 原級留置学生(留年生)の指導・・・・・・・・・・・・・・ 11

18 成績不振学生の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

19 クラスの慶弔・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

20 授業（保健体育除く）における体育館の使用・・・・・・ 12

21 クラスの活動の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第 2 章 教科担当業務（授業）・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

1 シラバスの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

2 出席簿の記入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

3 欠課・休講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4 履修放棄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

5 試験，追認試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

6 成績評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

7 成績の入力について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

(出典 学生課教務・キャリア支援係作成 教務便覧 抜粋)

平成 26 年度 校務分掌

資料 2 - 2 - ③ - 5

2014. 3. 14 現在

校長補佐	大塚茂 (企画)	香川 (国際交流)	竹中 (教務)	森田典 (学生)	河野 (寮務)	稲田 (専攻科)
主事補等	山口	永井	南	中山	田中晋	小川
	細田		川邊	田中博	北農	松岡
			浅倉	早水英	原	角田
			大塚宏	伊達	小椋	
				石倉	村田	
専命 (教育CD)	(池本)					
専命 (野原部長)	山藤					

図書館
館長 熊谷
副館長
館長補

キャリア支援室
室長 松本圭
副室長 (南)

学科等	学科長等
機 械 工学科	森 田 慎
電 気 情 報 工学科	宮 田
電 子 制 御 工学科	山 本
物 質 工学科	藤 井 雄
建 築 科	玉 井
教養教育 科	竹 内

学 科	学 級 担 任 (◎学年主任)				
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年
機 械 工学科	権 田 岳	倉 田	大 野	◎早 水 重	矢 壁
電 気 情 報 工学科	◎大 庭	小 林	松 原	奥 雲	庄 倉
電 子 制 御 工学科	中 井	池 本	堀 畑	青 柳	◎能 登 路
物 質 工学科	松 崎	谷 藤	◎小 田	櫻 間	青 木
建 築 科	酒 井	◎山 田	西 川	高 増	前 原

運営会議
校 長
校長補佐(企画)
校長補佐(国際交流)
校長補佐(教務)
校長補佐(学生)
校長補佐(寮務)
校長補佐(専攻科)
地域共同テクノセンター長
事務部長
総務課長
学生課長

学科長会議
校 長
校長補佐(企画)
校長補佐(国際交流)
校長補佐(教務)
校長補佐(学生)
校長補佐(寮務)
校長補佐(専攻科)
図書館長
情報教育センター長
地域共同テクノセンター長
技術教育支援センター長
キャリア支援室長
学科(科)長
事務部長
総務課長
学生課長
広報室長
技術長

情報教育センター
センター長 松本圭
副センター長
センター長補
徳 光

学生相談室
室長 布施
相談員 (永井)
(中島)
(松崎)

特別支援教育室
室長 竹中
副室長 (中島)
室員 布施

地域共同 テクノセンター
センター長 新田
副センター長 権田英
センター長補 金澤
副センター長補 藤井貴

広報室
室長 加藤
室員 中島

各種委員会委員等 (◎委員長)																					
学科選出・学年選出委員会委員				学科選出委員会委員				その他の委員会委員													
学 年	教 務	キャリア支援	学生支援	寮 務	学 科	専攻科	図書館	情報教育	地域共同	点検・評価	広報室	情報	入学試験	知的財産	技術教育	安全衛生	環境	インフラ	予算	J A B E	
職指定	◎校長補佐(教務)	◎キャリア支援室長	◎校長補佐(学生)	◎校長補佐(寮務)	◎校長補佐(専攻科)	◎館長	◎センター長	◎センター長	◎センター長	◎校長補佐(企画)	◎広報室長	◎校長補佐(企画)	◎校長	◎地域共同テクノセンター長	◎セブ長	◎事務部長	◎事務部長	◎事務部長	◎校長	◎校長補佐(企画)	
職指定	教務主事補	キャリア支援副室長	学生主事補	寮務主事補	副専攻科長	副専攻科長	副セブ長	副セブ長	副セブ長	校長補佐(国際交流)	運営会議メンバー	校長補佐(教務)	全校長補佐	發明者が所属又は関係する学科長等	セブ長	産業医	総務課長	運営会議メンバー	全校長補佐(教務)	校長補佐(教務)	
機 械	森 田 慎	松 本 圭	権 田 岳	原 圭	機 械	山 口			森 田 慎	職指定											
電 気	宮 田	庄 倉	田 中 博	松 原	電 気	松 岡			権 田 英												
電 子	山 本	能 登 路	中 山	D 新 人	電 子	角 田			山 本												
物 質	藤 井 雄	青 木	伊 達	田 中 晋	物 質	小 川			藤 井 貴												
建 築	玉 井	西 川	高 増	北 農	建 築	細 田			金 澤												
教養教育	竹 内	竹 内	早 水 英	古 清 水	教養教育	大 庭			竹 内												
1 学年	大 庭	松 崎	権 田 岳	中 井																	
2 学年	山 田	谷 藤	小 林	倉 田																	
3 学年	小 田	西 川	大 野	松 原																	
4 学年	早 水 重	櫻 間	高 増	奥 雲																	
5 学年	能 登 路	矢 壁	庄 倉	能 登 路																	

留学生指導 教員代表
---------------

同窓会校内委員

【専門部会】

部 会 名	委 員 (◎部会長) (順不同)
入学試験委員会中学校連絡専門部会	

資料 2 - 2 - ③ - 6

資料 1

平成 25 年 4 月 2 日

教員会議

平成 25 年度米子高専運営方針等

校長 齊藤正美

(中略)

(2) 教育の質の向上と改善のための方策を検討し、実施する

1) 担任制の強化・充実

- ・ 学年単位集団担任制の充実：特に低学年担任団を中心に、学年単位集団担任制度の確立を模索しつつ、学習指導、生活指導、クラス運営等の方法や問題点について検討し、改善を進める
- ・ 留年者数（特に低学年における）の低減策の検討と実施

2) 国際性の涵養教育の推進(ロードマップの作成)

- ・ 英語コミュニケーション能力の向上策の推進(TOEIC 支援、CALL 教室など)
- ・ 国際学術交流協定に基づく学生海外派遣等の実施
- ・ 海外研修旅行実施計画の策定(制服の検討も含む)

3) 新採教職員研修制度の充実(双方向授業研究の実施も含む)

4) コアカリキュラムの検討

5) キャリア教育に関する検討

(3) 図書館情報センター及び第一体育館の全面改修を行う

図書館情報センターを改修することにより、学生および教職員の憩いと交流の場を設け、自発的に学習に取り組む環境を整備するとともに、一般市民に開放できる施設として、地域に根ざした学校としての魅力の向上を図る。

(4) 50周年記念事業の準備を進める

記念誌の編纂、募金活動、ロゴマークの募集、記念式典・記念講演会の計画策定、50周年記念プラザの設立、卒業生ネットワークの構築、国際交流基金の創設など

(5) JABEE 中間審査、認証評価受審準備を進める。

(6) 全国高専デザコン、全国高専将棋大会及び中国地区高専体育大会、中国地区英語弁論大会を主管校として運営・実施する。

(出典 総務課人事労務係資料)

**平成 24 年度校外研修旅行 第 2 回打ち合わせ会 議事要旨**

日時：平成 24 年 8 月 6 日（月） 15：45～17：00

場所：小会議室

出席者：倉田，浅倉，中山，黒川，酒井の各担任，大野，小林，村田，細田の各副引率，玉井キャリア支援室長，原（豊）キャリア支援副室長，荒木教務・キャリア支援係長，齋尾教務・キャリア支援係員，JTB 岩井氏

欠席者：原（圭）副引率

**1，日程確認**

- ・資料に基づき，日程確認を行い，活動場所，雨天時プログラム等を決定した。これを反映した最終版は黒川教員より提出してもらう。なお，この日程は，三瓶青少年交流の家との事前打ち合わせで変更になる可能性がある。
- ・アクアスのバックヤード見学は 1 クラスを 20 人程度に分けて行う。
- ・当日の出発は A 科を一番最後にする。他のクラスは三瓶青少年交流の家の入所ガイダンスを同時に行うので，同じ頃に出発する。
- ・原副室長は，全クラスの出発を見届けてから校用車で三瓶青少年交流の家に向かうため，到着が遅れた場合は入所手続きを中山学年主任が代理で行う。
- ・アレルギーについては，重度のものは 1 ヶ月程度前に，その他の軽度なものは 10 月に JTB へ連絡する。

後略

（出典 平成 24 年 8 月 6 日 2 年校外研修旅行打合せ記録）

（出典 平成 25 年 4 月 2 日教員会議資料）

## 平成 25 年度 3 年工場見学旅行反省会

日時：平成 25 年 11 月 28 日（木）16：00～16：50

場所：教養教育科ゼミ室

出席：権田・松原・中井・櫻間・松本キャリア支援室長

欠席：熊谷・池本・大野・角田・堀畑・加藤

## 全体・クラス意見

- ・今回の旅行は全体的(学生の行動・添乗員,バスガイドの対応等)に良かったという意見が多かった。
- ・旅行後の学生に今後について意識が変わったのもできた。
- ・見学先で質問も活発に行き企業によっては喜んでいただいた所もあった。が、1 人の学生がたくさんの質問をする学科もあった。
- ・携帯電話持ち込み不可の企業もあるので、携帯電話はバスに置いて行くよう徹底させたほうがよいのではないかという意見があった。
- ・宿に着いてからの自由時間は特に問題はなかった。  
来年度以降も宿は繁華街を可能な限り外し、食事後は宿から出さない方向がよいと検討された。(ツイッター等で軟禁だという学生のクラスもあったとのこと)
- ・旅行当日に頭髮チェックで引っ掛かった学生について連れて行かなくてもよいのでは…という意見について  
キャリア支援室長より最終的判断は学生部に任せると判断があった。
- ・担任の先生で旅行出発当日に体調不良で出発が 30 分遅れたクラスがあり、このような場合の処置について不安があるという意見がでた。  
体調の悪い先生は前もって伝えていただければ代理をたてる。  
緊急の場合は、その時に対応するしかないということになった。

## 旅行会社へ要望

- ・バス手配について補助席での旅行はありえないと意見がでた。
- ・旅費について家計に余裕のある学生ばかりではないので金額を落とせるところまでは落としてほしいとの意見がでた。
- ・高速道路の工事規制等で前もって情報が得られるものについてはリサーチをしておいてほしいと意見がでた。
- ・宿の部屋割表をもう少し早く渡してほしいと意見がでた。  
旅行会社からお詫び言葉があり今後は気をつけたいと言われた。  
バスの手配に関して、教務・キャリア支援係としては来年度見積仕様書に各クラス学生人数+引率教員 2 名の人数一覧と「参加者全員が正座席に座れるバスを手配すること」と記載をすることとした。

(出典 平成 25 年 11 月 28 日 3 年工場見学旅行打合せ記録)

資料 2 - 2 - ③ - 9

H25.4.17

平成25年度 年間LHR計画の内、共通で計画するもの

部分は教務部で企画・運営します。  
 部分は学生部で企画・運営します。  
 部分はキャリア支援室が企画・運営します。  
 部分は学年全体で行ってください。

1年生 水曜7時間目

●前期	月日	内容	担当
1	4月10日	修学ガイダンス	教務
2	4月17日		
3	4月24日		
4/25 健康の日			
4	5月1日	勉強の仕方(数学・物理)	教務
5	5月8日		
5/15 球技大会			
6	5月22日	避難訓練	
7	5月29日	ケータイ・スマホ安全教室	学生
6/1~3 高校総体			
8	6月5日		
6/6~6/12 前期中間試験			
9	6月19日	命の大切さ(カウンセラー)	学生
10	6月26日		
11	7月3日	オープンファクトリー説明	キャリア
7/5~7 高専大会			
7/12, 13 保護者懇談会			
13	7月17日		
14	7月24日	アンケートQU	教務
15	7月31日		
8/1~8/7 前期末試験			
8/8~9/24 夏休み			
9/25~9/27補講、9/30特別日課			

◆後期

16	10月2日		
17	10月9日		
10/16~10/18 特別行事			
18	10月23日	学校周辺の清掃	
19	10月30日		
11/1~11/3 文化祭			
20	11月6日		
21	11月13日	米子市海外研修員の話	教務
22	11月20日		
23	11月27日		
12/4~12/10 後期中間試験			
24	12月11日		
12/18 スポレク大会			
12/24~1/6 冬休み			
26	1月8日		
1/21 推薦入試			
27	1月22日		
28	1月29日	命の大切さ(助産師)	学生
29	2月5日		
30	2月12日		
2/19~2/25 学年末試験			
2/26 終業式			

【備考】上記以外にクラス毎に年1回、学校内敷地の清掃をお願いします。  
 (●山本商店側の自転車置き場周辺などを中心に)下に日程案を示しますが、変更していただいてもかまいません。

2年生 金曜7時間目

●前期	月日	内容	担当
1	4月5日		
2	4月12日		
3	4月19日		
4/25 健康の日			
4	4月26日		
5	5月10日		
6	5月17日	進路・成績などの話	教務
7	5月24日	アンケートQU	教務
8	5月31日		
6/1~3 高校総体			
6/6~6/12 前期中間試験			
9	6月20日	ケータイ・スマホ安全教室	学生
10	6月21日	学生部(白砂青松アダプトプロジェクト)	学生
11	6月28日		
7/5~7 高専大会			
13	7月10日	学校周辺の清掃	
7/12, 13 保護者懇談会			
14	7月19日	オープンファクトリー説明	キャリア
15	7月26日		
8/1~8/7 前期末試験			
8/8~9/24 夏休み			
9/25~9/27補講、9/30特別日課			

◆後期

16	10月4日		
17	10月11日		
10/16~10/18 特別行事			
18	10月25日		
11/1~11/3 文化祭			
19	11月8日		
20	11月15日	薬物に関する講話	学生
21	11月22日		
22	11月29日		
12/4~12/10 後期中間試験			
24	12月13日		
12/18 スポレク大会			
25	12月20日		
12/24~1/6 冬休み			
26	1月10日		
27	1月17日		
1/21 推薦入試			
28	1月24日		
29	1月31日		
30	2月7日		
2/19~2/25 学年末試験			
2/26 終業式			

3年生 木曜7時間目

●前期	月日	内容	担当
4/4 入学式			
1	4月11日		
2	4月18日		
4/25 健康の日			
3	5月2日		
4	5月9日		
5	5月16日	アンケートQU	教務
6	5月23日	学校周辺の清掃	
7	5月30日		
6/1~3 高校総体			
6/6~6/12 前期中間試験			
8	6月13日		
9	6月20日	ケータイ・スマホ安全教室	学生
10	6月27日		
11	7月4日	オープンファクトリー説明	キャリア
7/5~7 高専大会			
13	7月11日		
7/12, 13 保護者懇談会			
14	7月18日		
15	7月25日		
8/1~8/7 前期末試験			
8/8~9/24 夏休み			
9/25~9/27補講、9/30特別日課			

◆後期

16	10月3日		
17	10月10日	工場見学旅行結団式・教員顕彰アンケート	
10/16~10/18 特別行事			
18	10月24日		
11/1~11/3 文化祭(10/31 準備日)			
19	11月7日		
20	11月14日	学習到達度試験模擬試験	数学科
21	11月21日		
22	11月28日		
12/4~12/10 後期中間試験			
24	12月12日	インターンシップ講演会	キャリア
12/18 スポレク大会			
25	12月19日		
12/24~1/6 冬休み			
26	1月9日		
27	1月16日	ストレス耐性テスト	教務
1/21 推薦入試			
28	1月23日	交通安全講習会	学生
29	1月30日	専攻科説明会	専攻科
30	2月6日		
2/19~2/25 学年末試験			
2/26 終業式			

注)インターンシップ講演会の実施方法、日程に関しては各クラス担任と各学科に委ねるものとする。

(出典 学生課教務・キャリア支援係資料)

〔目 次〕

月別指導項目

指導理念

第1章 学生生活

1-1 新・旧担任引き継ぎについて ..... 1

1-2 学年始めのH・Rについて ..... 1

1-3 夏休み前のH・Rについて ..... 1

1-4 学資援助について ..... 1

1-5 服装等について ..... 5

1-6 車両通学について ..... 6

1-7 クラス写真について ..... 7

1-8 喫煙について ..... 8

1-9 アルバイトについて ..... 8

1-10 下宿生に対する指導について ..... 8

1-11 指導連盟の申し合せについて ..... 9

1-12 家庭訪問・慶弔等について ..... 9

1-13 米子工業高等専門学校学生表彰内規の運用について ..... 9

第2章 学校行事

2-1 遠足について .....13

2-2 校内球技大会、スポーツ・レクリエーションについて .....13

2-3 工場見学旅行中の学生指導について .....13

2-4 文化祭（高専祭文化の部）について .....13

第3章 学生会

3-1 学生会の指導について .....15

3-2 集会・政治活動について .....16

3-3 掲示等について .....16

第4章 クラブ活動

4-1 教員の学生指導のための経費について .....17

4-2 クラブ対外試合の取扱いについて .....17

4-3 クラブ・同好会と指導教員について .....17

4-4 長期休業中の課外活動等に伴う施設宿泊について .....17

4-5 体育施設の管理方法等について .....18

4-6 対松江高専定期戦について .....19

4-7 高等専門学校体育大会について .....19

4-8 課外活動中の事故について .....20

第5章 事故・健康

5-1 学生事故とその教育的措置について .....21

5-2 健康相談・健康診断等について .....24

5-3 学生の疾病・事故の処置について .....24

5-4 独立行政法人日本スポーツ振興センター（災害共済給付契約）について .....25

資料 2 - 2 - ③ - 10

〔月別指導項目〕

月	内容	分類番号	頁
4	新・旧担任引き継ぎについて	1-1	1
	学年始めのH・Rについて	1-2	1
	クラス写真について	1-7	7
	車両通学について	1-6	6
	喫煙について	1-8	8
	学資援助について	1-4	1
5	対松江高専定期戦について	4-6	19
6	春季校内球技大会について	2-2	13
7	夏休み前のH・Rについて	1-3	1
7 8	中国地区高専体育大会について	4-7	19
	全国高専体育大会について	4-7	20
10	工場見学旅行中の学生指導について	2-3	13
	遠足について	2-1	13
	秋季スポーツ・レクリエーション大会について	2-2	13
	学資援助について	1-4	1
11	文化祭（高専祭文化の部）について	2-4	13
	中国地区高専体育大会冬季大会について	4-7	19
1	米子工業高等専門学校学生表彰内規の運用について	1-13	9

（出典 学生生活指導の手引抜粋）

資料 2 - 2 - ③ - 11 米子高専組織図

Organization

# 03 組織

## 1 教職員現員

平成26年5月1日現在

区分	教 員						職 員	合 計
	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	計		
教職員	1	33	21	5	16	76	44	120

## 2 組織図

